

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	東海財務局長
【提出日】	平成25年6月26日
【事業年度】	第80期(自平成24年4月1日至平成25年3月31日)
【会社名】	名鉄運輸株式会社
【英訳名】	Meitetsu Transport Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	取締役社長 柴田 雄己
【本店の所在の場所】	名古屋市東区葵二丁目12番8号
【電話番号】	(052)935-5721(代表)
【事務連絡者氏名】	財務部次長 西村 佳彦
【最寄りの連絡場所】	名古屋市東区葵二丁目12番8号
【電話番号】	(052)935-5721(代表)
【事務連絡者氏名】	財務部次長 西村 佳彦
【縦覧に供する場所】	株式会社名古屋証券取引所 (名古屋市中区栄三丁目8番20号)

第一部 【企業情報】

第 1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第76期	第77期	第78期	第79期	第80期
決算年月	平成21年 3 月	平成22年 3 月	平成23年 3 月	平成24年 3 月	平成25年 3 月
売上高 (百万円)	89,584	80,828	84,823	89,689	92,289
経常利益 (百万円)	635	3,033	2,869	3,099	2,263
当期純利益又は当期純損失() (百万円)	1,711	2,274	1,240	2,108	772
包括利益 (百万円)	—	—	1,080	2,462	1,097
純資産額 (百万円)	5,720	7,986	9,066	12,215	13,210
総資産額 (百万円)	74,641	73,325	72,464	80,212	80,071
1 株当たり純資産額 (円)	235.27	328.52	373.02	471.46	511.15
1 株当たり当期純利益又は当期純損失() (円)	70.38	93.54	51.02	86.78	31.80
潜在株式調整後 1 株当たり当期純利益 (円)	—	—	—	—	—
自己資本比率 (%)	7.66	10.89	12.51	14.28	15.51
自己資本利益率 (%)	25.06	33.18	14.54	20.55	6.47
株価収益率 (倍)	—	1.59	3.23	1.97	5.66
営業活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	2,374	5,033	5,592	5,432	3,519
投資活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	4,593	1,604	2,077	3,169	2,845
財務活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	2,068	3,483	3,406	2,012	721
現金及び現金同等物の期末残高 (百万円)	250	195	303	554	506
従業員数 [外、平均臨時雇用人員] (名)	5,492 [2,757]	5,246 [2,633]	5,301 [2,695]	5,846 [2,804]	5,925 [2,546]

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 潜在株式調整後 1 株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第76期	第77期	第78期	第79期	第80期
決算年月	平成21年 3 月	平成22年 3 月	平成23年 3 月	平成24年 3 月	平成25年 3 月
売上高 (百万円)	58,163	51,973	52,411	53,041	53,031
経常利益 (百万円)	153	2,068	2,029	2,380	1,630
当期純利益又は当期純損失 (百万円)	1,855	2,156	1,102	1,918	894
資本金 (百万円)	2,065	2,065	2,065	2,065	2,065
発行済株式総数 (株)	24,402,991	24,402,991	24,402,991	24,402,991	24,402,991
純資産額 (百万円)	2,158	4,304	5,298	7,477	8,461
総資産額 (百万円)	58,238	56,543	55,285	58,129	59,557
1株当たり純資産額 (円)	88.79	177.10	218.00	307.71	348.26
1株当たり配当額 (円)	—	—	2.00	2.50	3.50
(うち1株当たり 中間配当額) (円)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)
1株当たり当期純利益又は 当期純損失 (円)	76.31	88.72	45.38	78.96	36.80
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 (円)	—	—	—	—	—
自己資本比率 (%)	3.71	7.61	9.58	12.86	14.21
自己資本利益率 (%)	56.43	66.74	22.97	30.04	11.22
株価収益率 (倍)	—	1.68	3.64	2.17	4.89
配当性向 (%)	—	—	4.4	3.17	9.51
従業員数 (名)	2,304	2,238	2,249	2,210	2,366
[外、平均臨時雇用人員]	[1,743]	[1,678]	[1,569]	[1,571]	[1,485]

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【沿革】

昭和18年 6 月	愛知県一宮市において、一宮運輸(株)として設立。
昭和20年 4 月	名古屋鉄道(株)が設立した名岐運輸(株)を吸収合併し、蘇東運輸(株)に商号変更。
昭和34年10月	蘇東運輸(株)の出資により蘇東急配(株)が名古屋市東区において設立。(現 連結子会社名鉄急配(株) 昭和35年 5 月に商号変更)
昭和35年 4 月	名鉄運輸(株)に商号変更。
昭和35年 5 月	半田通運(株)(本社 愛知県半田市)を吸収合併。
昭和35年 6 月	本社を名古屋市熱田区に移転。
昭和36年 4 月	名鉄運輸(株)(本社 栃木県宇都宮市)を吸収合併。
昭和39年10月	名鉄運輸(株)(本社 栃木県足利市)を吸収合併。
昭和43年11月	名鉄運送(株)が名古屋市港区において設立。(現 連結子会社名鉄急配(株))
昭和45年 4 月	利用航空運送事業及び航空運送代理店業の営業開始。
昭和45年 6 月	西肥貨物運送(株)(本社 長崎県佐世保市)に出資し、西肥名鉄運輸(株)に商号変更。(現 連結子会社)
昭和45年10月	倉庫(流通)事業の営業開始。
昭和46年 5 月	北福岡運送(株)(本社 岩手県二戸市)に出資し、東北名鉄運送(株)に商号変更。(現 連結子会社東北名鉄運輸(株) 昭和57年12月に商号変更)
昭和47年 4 月	ゴールデン航空(株)(本社 東京都江東区)に出資し、名鉄ゴールデン航空(株)に商号変更。(現 連結子会社)
昭和49年 8 月	名鉄運輸(株)(本社 岡山県児島郡)と名鉄運輸(株)(本社 札幌市中央区)を吸収合併。
昭和51年 8 月	名古屋証券取引所市場第二部に上場。
昭和56年 9 月	宅配便の営業開始。
昭和59年 4 月	VAN(付加価値通信網)業務開始。
昭和61年 4 月	利用航空運送事業及び航空運送代理店業を名鉄ゴールデン航空(株)に譲渡。
昭和63年 1 月	三陸貨物(株)(本社 仙台市宮城野区)に出資。(現 連結子会社)
平成 4 年 5 月	現在地(名古屋市東区)へ本社を移転。
平成18年 3 月	北陸地区事業を会社分割し、北陸名鉄カーゴサービス(株)に承継。
平成19年10月	北海道地区事業および九州地区事業を会社分割し、北海道地区事業は新設会社の北海道名鉄運輸(株)に、九州地区事業は九州名鉄カーゴサービス(株)に承継。また、九州名鉄カーゴサービス(株)を九州名鉄運輸(株)に、北陸名鉄カーゴサービス(株)を北陸名鉄運輸(株)にそれぞれ商号変更。
平成21年 4 月	名鉄急配(株)が東海名鉄運輸(株)を吸収合併。
平成22年 1 月	広島支店業務を中国名鉄運送(株)に譲渡。
平成22年 4 月	名古屋鉄道(株)の子会社である和歌山名鉄運輸(株)(本社 和歌山県和歌山市)の株式を取得して子会社化。
平成22年10月	西肥名鉄運輸(株)が九州名鉄運輸(株)を吸収合併し、九州名鉄運輸(株)に商号変更。
平成23年10月	名古屋鉄道(株)の子会社である四国名鉄運輸(株)(本社 愛媛県松山市)の株式を取得して子会社化。

3 【事業の内容】

連結財務諸表提出会社(以下、当社という。)の企業集団は、親会社名古屋鉄道(株)グループの中であって、貨物運送事業を主力とする総合物流事業を行っており、子会社23社と関連会社3社で構成し、それぞれが事業地域及び分野を複合的に分担し、物流ニーズの対応に企業グループが一体となって結束して、総合物流事業の展開を図っております。

当社グループの事業における位置付け及びセグメントとの関連は、以下のとおりであります。なお、セグメントと同一の区分であります。

- ・ 貨物自動車運送事業

当社は、当社グループの中核として全国ネットワークを有し、混載貨物を主力とする商流貨物輸送などを運営し、市場ニーズに対応した輸送商品を開発して、幅広いサービスを提供しております。連結子会社四国名鉄運輸(株)ほか20社、持分法適用関連会社中京通運(株)1社が、それぞれの事業区域で当社の輸送を補完し、企業集団としての役割を果たしております。

- ・ 航空利用運送事業

連結子会社名鉄ゴールデン航空(株)及び四国名鉄運輸(株)において、航空会社と代理店契約を締結し、東京ほか全国の都道府県を事業区域として、国内の航空貨物及び小口荷物の輸送を行うことを主な業務とし、グループ各社と連携して企業集団としての総合物流事業の強化を進めております。

- ・ 流通事業

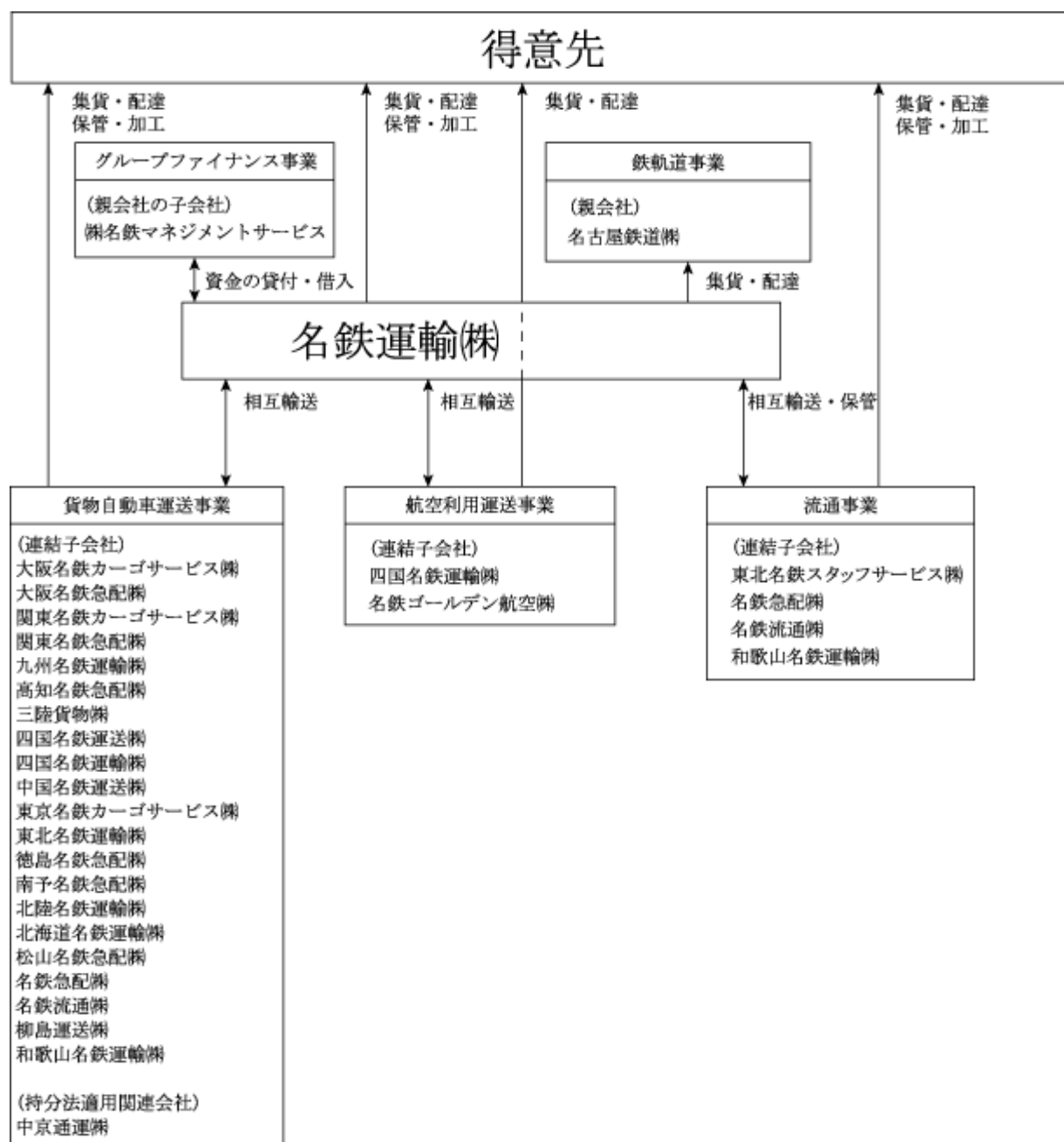
当社及び一部の連結子会社において、貨物輸送にかかわる貨物の保管業務及び顧客のニーズに対応した流通加工業務や納品代行業務等を行いトータル的な物流サービスを提供しております。

- ・ その他

当社及び一部の連結子会社において、遊休となった旧営業所・支店等の土地・建物を事務所や駐車場などとして賃貸することで有効活用を進めております。

なお、当社及び一部の連結子会社はキャッシュマネジメントシステムを利用しており、当社は親会社の子会社である(株)名鉄マネジメントサービスとの間で資金の貸付及び借入を行っております。

事業の系統図は次のとおりであります。



4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金又は 出資金 (百万円)	主要な事業 の内容	議決権の所有 [被所有]割合 (%)	関係内容
(親会社)					
名古屋鉄道㈱ 2	名古屋市中村区	84,185	鉄軌道事業	[51.00]	運送の受託 役員の兼務 3名
(連結子会社)					
大阪名鉄カーゴサービス㈱	大阪市東淀川区	20	貨物自動車運 送事業	100.00	運送の委託、受託 営業設備の賃貸 資金の借入 役員の兼務 3名
大阪名鉄急配㈱ 3	大阪府泉北郡忠岡町	50	貨物自動車運 送事業	100.00	運送の委託、受託 営業設備の賃貸 資金の貸付 役員の兼務 1名
関東名鉄カーゴサービス㈱	栃木県足利市	30	貨物自動車運 送事業	100.00	運送の委託、受託 営業設備の賃貸 資金の借入 債務保証 役員の兼務 3名
関東名鉄急配㈱	茨城県土浦市	48	貨物自動車運 送事業	100.00	運送の委託、受託 営業設備の賃貸借 資金の貸付 役員の兼務 3名
九州名鉄運輸㈱	福岡県糟屋郡久山町	100	貨物自動車運 送事業	100.00	運送の委託、受託 営業設備の賃貸 資金の貸付 役員の兼務 4名
三陸貨物㈱ 3	仙台市宮城野区	50	貨物自動車運 送事業	100.00	運送の委託、受託 営業設備の賃貸 資金の貸付 役員の兼務 1名
四国名鉄運輸㈱ 1, 4	愛媛県松山市	240	貨物自動車運 送事業	76.50	運送の委託、受託 営業設備の賃貸借 資金の貸付 役員の兼務 3名
中国名鉄運送㈱	山口県山口市	95	貨物自動車運 送事業	100.00	運送の委託、受託 営業設備の賃貸 資金の借入 役員の兼務 3名
東京名鉄カーゴサービス㈱	東京都江戸川区	30	貨物自動車運 送事業	100.00	運送の委託、受託 営業設備の賃貸 資金の借入 役員の兼務 4名
東北名鉄運輸㈱	岩手県紫波郡矢巾町	49	貨物自動車運 送事業	100.00	運送の委託、受託 資金の貸付 役員の兼務 2名
北陸名鉄運輸㈱	石川県金沢市	60	貨物自動車運 送事業	100.00	運送の委託、受託 資金の貸付 債務保証 役員の兼務 3名
北海道名鉄運輸㈱	札幌市白石区	10	貨物自動車運 送事業	100.00	運送の委託、受託 資金の貸付 役員の兼務 2名

名称	住所	資本金又は 出資金 (百万円)	主要な事業 の内容	議決権の所有 [被所有]割合 (%)	関係内容
名鉄急配㈱	愛知県稲沢市	100	貨物自動車運 送事業	100.00	運送の委託、受託 営業設備の賃貸借 資金の貸付 役員の兼務 3名
名鉄ゴールデン航空㈱	東京都江東区	96	航空利用運送 事業	100.00	運送の委託、受託 営業設備の賃貸借 資金の貸付 役員の兼務 5名
名鉄流通㈱	東京都江戸川区	10	流通事業	100.00	運送の委託、受託 営業設備の賃貸 資金の貸付 役員の兼務 3名
柳島運送㈱	愛知県碧南市	50	貨物自動車運 送事業	100.00	資金の貸付 役員の兼務 3名
和歌山名鉄運輸㈱	和歌山県和歌山市	20	貨物自動車運 送事業	100.00	運送の委託、受託 営業設備の賃貸 資金の貸付 役員の兼務 3名
その他 6 社					
(持分法適用関連会社)					
中京通運㈱	名古屋市中川区	60	貨物自動車運 送事業	50.00	運送の委託、受託 役員の兼務 3名

(注) 1 「主要な事業の内容」欄には、セグメント情報に記載された名称を記載しております。

2 1：特定子会社であります。

3 2：有価証券報告書の提出会社であります。

4 3：平成25年3月をもって解散し、現在清算手続き中であります。

5 4：四国名鉄運輸㈱については、売上高（連結会社相互間の内部売上高を除く）の連結売上高に占める割合が10%を超えております。

主要な損益情報等 売上高 13,370百万円

経常利益 420 "

当期純利益 265 "

純資産額 3,173 "

総資産額 7,812 "

5 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成25年 3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(名)
貨物自動車運送事業	5,356[2,058]
航空利用運送事業	341[177]
流通事業	156[299]
全社(共通)	72[12]
合計	5,925[2,546]

(注) 従業員数は、当社グループから当社グループ外への出向者を除き、当社グループ外から当社グループへの出向者を含む就業人員であり、[]内は外書で臨時従業員の年間平均雇用人員であります。

(2) 提出会社の状況

平成25年 3月31日現在

従業員数(名)	平均年齢	平均勤続年数	平均年間給与(千円)
2,366[1,485]	42歳 5か月	14年 5か月	4,580

セグメントの名称	従業員数(名)
貨物自動車運送事業	2,225[1,267]
流通事業	69[206]
全社(共通)	72[12]
合計	2,366[1,485]

(注) 1 従業員数は、当社から他社への出向者を除き、他社から当社への出向者を含む就業人員であり、[]内は外書で臨時従業員の年間平均雇用人員であります。

2 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。

(3) 労働組合の状況

提出会社の労働組合は、名鉄運輸労働組合と称し、全日本運輸産業労働組合連合会に加入しております。また、連結子会社四国名鉄運輸(株)他11社には、それぞれ労働組合が組織されております。

現在、労使関係について特記すべき事項はありません。

第2 【事業の状況】

1 【業績等の概要】

(1) 業績

当連結会計年度における我が国経済は、当初、欧州債務問題や新興国経済の減速等の不透明感のなかで始まり、昨年末の政権交代以降、一段の金融緩和政策などを受けて、株価や投資マインド面での改善が先行しました。期末では景気は底入れ感をうかがわせるものの、実体経済面においては、未だ顕著な改善が見られぬまま推移しました。

物流業界も、期初においては、商工生産や個人消費等の回復兆候を受け、貨物輸送量は緩やかに増加に転じましたが、その後の景気失速による需要低下に伴い貨物輸送量は再び停滞へと転じました。また、運賃単価も同業者間の競争に伴い値下げ傾向が続く一方で、円安による燃料価格の高騰も加わるなど、売上高・費用の双方で極めて厳しい事業環境にありました。

当社グループでは、このような状況下で、当連結会計年度を初年度とする新中期経営計画の基本戦略「混載事業の差別化と最適サービス提供による収益力の強化」及び「グループ総合力の向上」に基づき、グループ各社がそれぞれ得意とする営業・業務ノウハウを統合し、営業深化による取引拡大施策を展開しました。

また、物流の中心である首都圏配送網の強化として、狭隘かつ老朽化した横浜支店（横浜市金沢区）と入間支店（埼玉県入間市）を移転拡大し、取扱貨物の増量と輸送品質の向上を図りました。

業務面におきましても、グループ各社が保有する施設の有効利用や、重複する集配エリアの解消に向け、支店所の統合や共同配送化などを進めるとともに、車両やIT機器の共同購入による更なるコスト軽減に取り組みました。また、車両事故抑制のためドライブレコーダー等装着と、これを活用した安全運転指導も精力的に進めました。

当連結会計年度におけるセグメント別の業績は、次のとおりであります。

（貨物自動車運送事業）

「路線事業」では、名鉄トラックグループ共同営業体制の構築と首都圏での営業強化を目的とし、強力な営業を展開している「東京営業部」においては、グループ一体となった営業が定着し、既存荷主様との取引拡大や、入札案件の成約など着実な営業を展開いたしました。全国各地の拠点においても、グループ営業責任者会議を定期開催し、営業情報の共有化を進めたほか、営業マンの増員とともに、スキルアップ教育も実施し、お客様対応の質量向上をめざしました。これらの施策等も寄与し、取扱発送量は増加となりました。

「区域事業」では、主要なお客様である家電メーカー及び自動車関連企業の取扱量の低下が大きく影響しました。

「引越事業」では、前期に引続き事務所移転や各種イベントに関わる案件獲得の営業を強化するとともに、官公庁・法人の公募入札案件にも積極的に参加いたしました。法人引越の近距離化・単身化や、同業他社との価格競争が激化いたしました。

以上の結果、貨物運送事業における売上高は、四国名鉄運輸(株)とその子会社の連結子会社化による増収もありましたが、前連結会計年度比3.8%増の80,191百万円にとどまり、売上総利益は前連結会計年度比6.6%減の5,303百万円となりました。

（航空利用運送事業）

航空利用運送事業では、主力商品の一つである個人情報や機密情報のデータセキュリティー輸送の部門は堅調に推移しましたが、主要なお客様である音楽関係、電子部品等の配送が振るわず、全体の配送量は低下しました。集配業務の効率化を促進するため、支店所の統廃合や東京都心部におけるグループ内共同配送に積極的に取り組み、輸送経費の圧縮を図りました。

以上の結果、航空利用運送事業における売上高は、四国名鉄運輸㈱の航空部門の統合効果もありましたが、前連結会計年度比2.8%減の8,213百万円、売上総利益は前連結会計年度比24.4%減の504百万円となりました。

（流通事業）

流通事業では、主要なお客様である日用雑貨メーカー、コンビニ関連の取扱量は堅調に推移しましたが、一部の精密機器メーカーの請負業務においては、国内の生産計画見直し等により業務量が減少しました。

以上の結果、流通事業の売上高は、前連結会計年度比0.4%減の5,465百万円、売上総利益は前連結会計年度比25.1%減の473百万円となりました。

（その他）

その他の事業では、当社において、旧戸塚営業所跡地や遊休資産の有効活用に努めた結果、前連結会計年度比11.6%増の128百万円、売上総利益は前連結会計年度比13.6%増の93百万円となりました。

以上の結果、当連結会計年度の売上高は、前連結会計年度比2.9%増の92,289百万円となりました。営業利益は、人件費、運送委託料及び燃料費などの増加により、前連結会計年度比28.2%減の2,293百万円、経常利益は、前連結会計年度比27.0%減の2,263百万円となりました。また、子会社解散に伴う事業整理損を特別損失に計上したことなどにより、当期純利益は前連結会計年度比63.4%減の772百万円となりました。

(2) 地域別売上高

区分	当連結会計年度 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)		前年同期比(%)
	金額(百万円)	構成比(%)	
東部地域	34,283	37.1	94.8
中部地域	22,922	24.8	96.2
西部地域	35,082	38.0	118.2
合計	92,289	100.0	102.9

(注) 1 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

2 東部...北海道、東北、北関東、東京、南関東 中部...東海、北陸 西部...近畿、中国、四国、九州

(3) 輸送能力

区分		当連結会計年度 (平成25年 3 月31日現在)		前年同期比(%)
		車両台数(台)	積載トン数(トン)	
貨物自動車	大型車	1,942(267)	21,168	100.4
	普通車	3,537(26)	12,380	98.9
合計		5,479(293)	33,548	99.8

(注) 1 「車両台数」欄の()内は内書でリース契約による台数であります。

2 「前年同期比」欄は積載トン数で比較しております。

(4) キャッシュ・フローの状況

「営業活動によるキャッシュ・フロー」は、税金等調整前当期純利益1,813百万円（前連結会計年度比1,059百万円減）、減価償却費3,199百万円（同比210百万円増）、法人税等の支払額2,063百万円（同比1,164百万円減）などにより、前連結会計年度に比べ1,912百万円減少し、3,519百万円の収入超過となりました。

「投資活動によるキャッシュ・フロー」は、有形固定資産の取得による支出3,201百万円（同比1,750百万円減）などがありましたが、前連結会計年度に連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出が発生したこともあり、前連結会計年度に比べ323百万円増加し、2,845百万円の支出超過となりました。

「財務活動によるキャッシュ・フロー」は、長期借入れによる収入11,240百万円（同比4,640百万円増）、短期借入金の純減少額1,146百万円（同比12,456百万円減）及び長期借入金の返済による支出10,377百万円（同比9,165百万円増）などにより、前連結会計年度に比べ1,290百万円増加し、721百万円の支出超過となりました。

これらの結果、現金及び現金同等物の期末残高は、前連結会計年度に比べ47百万円減少し、506百万円となりました。

2 【生産、受注及び販売の状況】

当社グループは、貨物自動車運送事業を主力とする総合物流事業を展開しており、また受注生産形態をとらない事業であるため、セグメントごとに生産規模及び受注規模を金額あるいは数量で示すことはしておりません。

このため、生産、受注及び販売の状況については、1「業績等の概要」における各セグメントの業績に関連付けて記載しております。

3 【対処すべき課題】

当社グループでは、平成24年度を初年度する新中期経営計画（平成24年～26年度）を策定し、「混載事業の差別化と最適サービス提供による収益力の強化」「グループ総合力の向上」「経営基盤の整備・強化」「CSR（企業の社会責任）の充実」4項目の基本戦略を設定し、業界内で勝ち残ることを至上命題に、グループ全体が利益体質への展開を図るよう、下記の課題に取り組んでおります。

- (1) 午前中配達地区を再編し、早期出発を厳密化することで安定した輸送品質を確保して顧客の信頼を絶対的なものにします。
- (2) ドライブレコーダーによるデータ解析を有効活用し、車両事故件数の減少に努めます。
- (3) グループ会社の総合力を高めるため、合同営業会議や合同業務会議を開催し、相互に共通認識を保ちながら、共通利益を追求します。
- (4) 今後の事業展開を考えたうえで、老朽化した施設の補修、改修などの維持更新を充実していきます。
- (5) 当社においては、経営基盤を強化する側面から、人事育成プログラムの開発などにより、人材の活性化を図ります。

当社グループでは、平成24年度は、輸送品質の確保や車両事故抑制のためドライブレコーダー等装着と、これを活用した安全運転指導も精力的に進めました。

当社グループとして引き続き誠実で堅実な経営を通じ地域社会から信頼していただくことが継続的な発展の基盤であり、企業倫理・法令の遵守のほか、安全管理や環境保護対策を徹底し、企業の社会的責任を確実に果たすことにより、社会や地域との調和を図るよう努めていきます。また、平成25年度以降本格的に開始する輸送管理システムの更新に合わせ、輸送情報の拡充やグループ内の情報の共有化などにより顧客サービスの充実や業務の効率化を推進していきます。

4 【事業等のリスク】

当社グループは、総合物流事業を展開しておりますが、特にグループの業績に重要な影響を及ぼす可能性があると考えられるリスクについては、以下のとおり認識しております。当社グループは、これらのリスクを認識した上で、発生の抑制・回避及び発生した場合の対応に努めております。

なお、将来に関する事項の記載については当連結会計年度末において判断したものであり、これらのリスクは当社グループのすべてのリスクを網羅したものではありません。

(1) 事故・災害等のリスク

当社グループは、公道を利用して事業を営んでいることから、社員教育等を通じ交通安全・事故防止対策に万全な体制を取っておりますが、常時5,000台を超える車両を運行させており、不慮の車両事故が発生する危険性があります。車両事故により賠償責任が生じた場合に備え、賠償保険等に参加し、その支払リスクを回避しておりますが、想定を超える事故賠償が発生した場合は、保険料上昇によるコスト増や信用低下による売上高の減少など当社グループの経営成績に影響を及ぼす場合があります。

また、地震、台風等の自然災害による車両、設備等の被害や様々な原因に基づく輸送障害、荷物事故などについては、その発生を想定した対策を講じておりますが、想定を超える被害や事故などが発生した場合には、事業運営に支障をきたす可能性があることに加え、復旧等にかかる費用が発生するなど当社グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(2) 市場等の変動に関するリスク

景気動向

当社グループは、物流事業の特性から国内外の景気動向や市場変動に大きな影響を受け、昨今の景気低迷、生産拠点の海外シフト、国内産業の空洞化により国内における輸送需要は減少を続けております。こうした状況に対し、当社グループは高品質で付加価値の高い輸送サービスの提供に努めておりますが、今後さらに、顧客の物流コスト削減要請、同業他社との価格競争が激化した場合、当社グループの経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

金利変動

当社グループは、よりよい物流サービス提供に向け、車両更新や拠点整備に継続的な設備投資を実施しているため、有利子負債の削減に努めながら、運転資金や設備資金を主として借入金により安定的かつ効率的に調達しております。借入金のほとんどは固定金利または金利スワップ取引により金利を固定化しておりますが、短期資金や変動金利での借入については、金利が変動した場合、資金調達コストが上昇し、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

不動産、株式市況

総合物流事業を展開する当社グループでは、営業所施設や営業所敷地等の不動産や取引先等の株式などの固定資産を保有しておりますが、これらの時価が著しく下落した場合は、減損損失または評価損等の計上により当社グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(3) 事業遂行に関するリスク

法律・制度・規制の改変

当社グループは、道路運送法、貨物自動車運送事業法などの関連法令を遵守して事業運営を行っておりますが、これらの法的規制が強化、追加された場合には、これらの規制を遵守するための費用増加、反対に規制が緩和された場合には、他社との競争激化による収支悪化の誘因になり、当社グループの経営成績に影響を及ぼす場合があります。

当社の見込みを上回る経営環境の変化

当社グループは、主にトラックを使用して事業を展開しており、燃料である軽油等の価格は原油価格や為替レートの変動に大きく影響され、購入単価の上昇は当社グループの経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

人材の確保・育成

当社グループが展開する物流事業は労働集約型であり、労働力としての質の高い人材の確保が必要です。そのため、優秀な人材を確保、育成し、労働環境を充実させて社員の定着を図ることが必要となりますが、これらが計画どおり進まない場合、当社グループの事業運営に影響を及ぼす可能性があります。

(4) 企業の社会的責任に関するリスク

新たな環境規制への対応

近年、地球環境問題への関心が高まる中、当社グループは低公害車の導入やエコドライブの推進等、環境対策に順次取り組んできておりますが、今後、当社グループの想定を上回る環境規制等が実施された場合、資金及び設備投資計画の再検討が不可欠となり、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

コンプライアンス違反

当社グループは、様々な法令、規則等の適用を受けて事業活動を行っております。そのため、内部統制システムを整備し、コンプライアンス（法令遵守）の徹底を図っておりますが、万一法令違反等が発生した場合には、当社グループの社会的信用が失墜するおそれがあるほか、行政処分等により当社グループの経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

顧客に対する不適切な対応・不十分なCS

当社グループは、物流事業を展開するうえで、荷物事故など顧客に対する不適切な対応や不十分なCS（顧客満足）が発生した場合には、競争力の低下、当社グループのブランドイメージの毀損をはじめ有形無形の損害が発生し、当社グループの経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

5 【経営上の重要な契約等】

特記すべき事項はありません。

6 【研究開発活動】

特記すべき事項はありません。

7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1)財政状態

当連結会計年度の資産合計は、前連結会計年度に比べ140百万円減少して80,071百万円でありました。流動資産は同273百万円減少して15,392百万円、固定資産は同133百万円増加して64,679百万円となりました。

流動資産減少の主な要因は、受取手形及び営業未収入金が349百万円、現金及び預金が46百万円減少したことなどであります。

固定資産増加の主な要因は、投資その他資産が108百万円減少した一方で、有形固定資産が261百万円増加したことなどであります。

負債合計は、前連結会計年度に比べ1,135百万円減少して66,861百万円でありました。流動負債は同3,494百万円減少して40,525百万円、固定負債は同2,359百万円増加して26,336百万円となりました。

リース債務を含む有利子負債は、前連結会計年度に比べ654百万円減少し40,933百万円となりました。

純資産合計は、前連結会計年度に比べ994百万円増加して13,210百万円でありました。これは、利益剰余金が760百万円、その他有価証券評価差額金が251百万円増加したことなどによります。

この結果、自己資本比率は、前連結会計年度の14.28%から15.51%となり、1株当たり純資産額は、前連結会計年度の471.46円から511.15円となりました。

(2)経営成績

当連結会計年度の業績については、「第2 事業の状況 1 業績等の概要」に記載しております。

(3)キャッシュ・フロー

当連結会計年度のキャッシュ・フローの状況については、「第2 事業の状況 1 業績等の概要」に記載しております。

第3 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

当社グループ(当社及び連結子会社)では当連結会計年度において、輸送能力の維持、増強及び物流サービスの向上を目指して総額3,662百万円の設備投資を実施しました。

なお、セグメントごとの設備投資の内容は以下のとおりであります。

(1) 貨物自動車運送事業

当連結会計年度の主な設備投資は、車両の代替購入などであり、総額3,575百万円の設備投資を実施しました。

なお、重要な設備の除却及び売却はありません。

(2) 航空利用運送事業

当連結会計年度の主な設備投資は、車両の代替購入などであり、総額25百万円の設備投資を実施しました。

なお、重要な設備の除却及び売却はありません。

(3) 流通事業

当連結会計年度の主な設備投資は、車両の代替購入などであり、総額59百万円の設備投資を実施しました。

なお、重要な設備の除却及び売却はありません。

(4) その他

当連結会計年度は総額1百万円の設備投資を実施しました。

なお、重要な設備の除却及び売却はありません。

2 【主要な設備の状況】

当社グループ(当社及び連結子会社)における主要な設備は、以下のとおりであります。

(1) 提出会社

平成25年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)						従業員数 (名)
			建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積㎡)	リース資産	工具器具 及び備品	合計	
本社 (名古屋市中区)	貨物自動車運送事業	統括業務設備	22	944	— [566]	39	118	1,124	81 [76]
東北地区・仙台支店 (仙台市宮城野区) 他東北地区4店所	貨物自動車運送事業	物流関連設備	420	428	1,731 (35,539) [7,673]	1	3	2,585	160 [64]
北関東支社・足利支店 (栃木県足利市) 他北関東地区5店所	貨物自動車運送事業 流通事業	物流関連設備	507	701	1,077 (57,998) [40,171]	30	20	2,337	233 [168]
東京支社・深川支店 (東京都江東区) 他東京・南関東地区 14店所	貨物自動車運送事業 流通事業	物流関連設備	1,220	1,148	6,883 (45,606) [45,352]	18	23	9,294	697 [384]
静岡西支店 (静岡県焼津市) 他静岡地区2店所	貨物自動車運送事業 流通事業	物流関連設備	856	191	835 (23,485) [27,802]	7	9	1,899	82 [75]
名古屋支社・小牧支店 (愛知県小牧市) 他東海地区16店所	貨物自動車運送事業 流通事業	物流関連設備	2,076	751	8,714 (171,919) [97,178]	0	27	11,569	515 [434]
大阪支社・淀川支店 (大阪市東淀川区) 他近畿地区10店所	貨物自動車運送事業	物流関連設備	1,072	739	8,019 (47,645) [23,951]	1	29	9,863	553 [271]
中国地区・岡山支店 (岡山市南区)	貨物自動車運送事業	物流関連設備	274	63	637 (17,664) [2,483]	2	3	980	45 [13]

- (注) 1 上記の金額は帳簿価額であり建設仮勘定は含んでおりません。なお、金額には消費税等は含まれておりません。
2 土地及び建物の一部を賃借しており、年間賃借料は2,519百万円であります。賃借している土地の面積については、[]で外書しております。
3 上記のほか、車両及び事務用機器等の一部をリース契約により賃借しております。主な車両等の年間リース料は378百万円であります。
4 事業用土地の再評価を行っております。
5 従業員数の[]内は外書で臨時従業員の年間平均雇用人員であります。

(2) 子会社

平成25年3月31日現在

会社名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)						従業員数 (名)
			建物及び 構築物	機械装置 及び 運搬具	土地 (面積㎡)	リース 資産	工具器具 及び備品	合計	
東北名鉄運輸㈱ (岩手県紫波郡矢巾町)他北海道・東北地区3社	貨物自動車運送事業	物流関連設備	754	153	1,447 (81,471) [13,278]	11	8	2,376	418 [206]
関東名鉄急配㈱ (茨城県土浦市)他北関東地区1社	貨物自動車運送事業	物流関連設備	52	16	142 (6,264) [7,467]	20	3	235	258 [37]
名鉄ゴールデン航空㈱(東京都江東区)他東京・南関東地区2社	貨物自動車運送事業 航空利用運送事業 流通事業	物流関連設備	315	42	550 (6,410) [17,480]	124	16	1,049	378 [201]
名鉄急配㈱ (愛知県稲沢市)他東海地区1社	貨物自動車運送事業 流通事業	物流関連設備	894	561	932 (35,063) [49,449]	29	15	2,433	611 [45]
北陸名鉄運輸㈱ (石川県金沢市)	貨物自動車運送事業	物流関連設備	703	206	1,180 (25,991) [37,906]	31	31	2,153	269 [108]
大阪名鉄急配㈱ (大阪府泉北郡忠岡町)他近畿地区2社	貨物自動車運送事業 流通事業	物流関連設備	97	59	679 (16,833) [2,826]	1	3	841	237 [89]
四国名鉄運輸㈱ (愛媛県松山市)他四国地区5社	貨物自動車運送事業 流通事業	物流関連設備	1,262	780	2,466 (79,717) [21,956]	36	24	4,569	623 [226]
九州名鉄運輸㈱ (福岡県糟屋郡久山町)他中国・九州地区1社	貨物自動車運送事業	物流関連設備	1,078	631	2,865 (157,705) [47,072]	22	26	4,625	765 [149]

- (注) 1 上記の金額は帳簿価額であり建設仮勘定は含んでおりません。なお、金額には消費税等は含まれておりません。
2 土地及び建物の一部を賃借しており、年間賃借料は1,365百万円であります。賃借している土地の面積については、[]で外書しております。
3 上記のほか、車両及び事務用機器等の一部をリース契約により賃借しております。主な車両等の年間リース料は892百万円であります。
4 九州名鉄運輸㈱において、事業用土地の再評価を行っております。
5 従業員数の[]内は外書で臨時従業員の年間平均雇用人員であります。

3 【設備の新設、除却等の計画】

(1) 重要な設備の新設等

当社グループ(当社及び連結子会社)の平成25年3月31日現在の重要な設備の新設の計画は次のとおりであります。

会社名	所在地	セグメントの 名称	設備の内容	投資予定金額		資金調達方法	着手及び完了予定		完成後の 増加能力
				総額 (百万円)	既支払額 (百万円)		着手	完了	
名鉄運輸㈱	—	貨物自動車運送事業 流通事業	車両の購入 (代替)	2,161	—	自己資金	平成25年 4月	平成26年 3月	—
名鉄運輸㈱	—	貨物自動車運送事業	輸送管理システムの更新	3,132	—	自己資金及び 借入金	平成25年 4月	平成28年 3月	—
四国名鉄運輸㈱他	—	貨物自動車運送事業 航空利用運送事業	車両の購入 (代替)	776	—	自己資金及び 借入金	平成25年 4月	平成26年 3月	—

(注) 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 重要な設備の除却等

該当事項はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	79,200,000
計	79,200,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (平成25年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成25年6月26日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	24,402,991	24,402,991	名古屋証券取引所 (市場第二部)	単元株式数は1,000株であります。
計	24,402,991	24,402,991	—	—

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成22年7月30日	—	24,402	—	2,065	1,534	—

(注) 会社法第448条第1項の規定に基づき、資本準備金を減少し、その他資本剰余金に振り替えたものであります。

(6) 【所有者別状況】

平成25年 3月31日現在

平成25年3月31日現在

区分	株式の状況(1 単元の株式数1,000株)								単元未満 株式の状況 (株)
	政府及び 地方公共 団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人 その他	計	
					個人以外	個人			
株主数 (人)	—	14	9	51	8	1	1,036	1,119	—
所有株式数 (単元)	—	4,521	162	14,237	662	1	4,670	24,253	149,991
所有株式数 の割合(%)	—	18.64	0.67	58.70	2.73	0.00	19.26	100.00	—

(注) 自己株式106,275株は、「個人その他」に106単元、「単元未満株式の状況」に275株含まれております。

(7) 【大株主の状況】

平成25年 3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(千株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
名古屋鉄道(株)	名古屋市中村区名駅一丁目2番4号	12,315	50.46
三井住友信託銀行(株)	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号	1,006	4.12
(株)三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内二丁目7番1号	965	3.95
名鉄運輸従業員持株会	名古屋市中村区葵二丁目12番8号	826	3.38
第一生命保険(株)	東京都千代田区有楽町一丁目13番1号	530	2.17
日本生命保険(相)	東京都千代田区丸の内一丁目6番6号	528	2.16
三菱ふそうトラック・バス(株)	川崎市幸区鹿島田一丁目1番2号	490	2.00
鈴与(株)	静岡市清水区入船町11番1号	400	1.63
CITIBANK NY S/A UBS CLIENT GENERAL-CAD (常任代理人 シティバンク銀行(株))	UBS BANK CANADA,154 UNIVERSITY AVENUE,TORONTO ONTARIO M5H 3Z4,CANADA (東京都品川区東品川二丁目3番14号)	400	1.63
三井住友海上火災保険(株)	東京都中央区新川二丁目27番2号	380	1.55
計	—	17,841	73.11

(8) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成25年 3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 106,000	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 24,147,000	24,147	—
単元未満株式	普通株式 149,991	—	—
発行済株式総数	24,402,991	—	—
総株主の議決権	—	24,147	—

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社保有の自己株式275株が含まれております。

【自己株式等】

平成25年 3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己保有株式) 名鉄運輸(株)	名古屋市東区葵二丁目12番 8号	106,000	—	106,000	0.43
計	—	106,000	—	106,000	0.43

(9) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号による普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数	価額の総額（千円）
当事業年度における取得自己株式	4,219	683
当期間における取得自己株式	—	—

(注) 当期間における取得自己株式には、平成25年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

種類	当事業年度		当期間	
	株式数（株）	処分価額の総額（千円）	株式数（株）	処分価額の総額（千円）
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	—	—	—	—
消却の処分を行った取得自己株式	—	—	—	—
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	—	—	—	—
その他(単元未満株式の買増請求)	—	—	—	—
保有自己株式数	106,275	—	106,275	—

(注) 当期間における保有自己株数には、平成25年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

3 【配当政策】

当社は、株主への利益還元を経営の重要政策の一つと考え、業績に応じた配当を行うことを基本とし、あわせて今後の企業体質の強化と事業展開を念頭に置き、内部留保の充実にも配慮し安定した配当を継続していくことを基本方針としております。

当社の剰余金の配当は、中間配当及び期末配当の年2回を基本方針としております。配当の決定機関は、中間配当は取締役会、期末配当は株主総会であります。

当期の配当については、一定の内部留保を確保できる見込みであるため、期末配当を1株あたり3円50銭としました。

内部留保金については、今後の営業拠点整備に備えるとともに財務体質を強化する資金に充当するなど経営基盤の充実に努めることとしております。

なお、当社は会社法454条第5項に規定する中間配当を行うことができる旨を定款で定めております。

(注) 基準日が当事業年度に属する剰余金の配当は、以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)
平成25年6月25日 定時株主総会決議	85	3.50

4 【株価の推移】

(1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第76期	第77期	第78期	第79期	第80期
決算年月	平成21年3月	平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月	平成25年3月
最高(円)	154	150	186	182	204
最低(円)	86	102	105	112	143

(注) 最高・最低株価は、名古屋証券取引所市場第二部におけるものであります。

(2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成24年10月	平成24年11月	平成24年12月	平成25年1月	平成25年2月	平成25年3月
最高(円)	153	155	162	175	184	204
最低(円)	144	143	150	160	171	175

(注) 最高・最低株価は、名古屋証券取引所市場第二部におけるものであります。

5 【役員の状況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
取締役社長		柴 田 雄 己	昭和25年 1 月11日生	昭和48年 4 月 平成16年 6 月 平成19年 6 月 平成21年 6 月 平成23年 6 月 平成24年 6 月 平成25年 6 月	名古屋鉄道㈱入社 名古屋鉄道㈱取締役 名古屋鉄道㈱常務取締役 名古屋鉄道㈱専務取締役 名古屋鉄道㈱取締役副社長 当社取締役副社長 当社取締役社長（現任）	(注) 2	5
専務取締役	営業統括	上 春 陽 一	昭和24年10月11日生	昭和48年 4 月 平成16年 6 月 平成17年10月 平成19年 5 月 平成19年 6 月 平成20年 6 月 平成21年 5 月	当社入社 当社取締役引越担当 当社取締役営業統括代行 当社取締役営業統括 当社常務取締役営業統括 当社専務取締役営業統括兼東京支社長 当社専務取締役営業統括（現任）	(注) 2	18
専務取締役	経営管理統括	杉 浦 実	昭和24年12月27日生	昭和43年 3 月 平成16年 4 月 平成17年 6 月 平成17年10月 平成18年 4 月 平成20年 6 月 平成22年 6 月	当社入社 当社関連事業部長 当社取締役関連事業部長 当社取締役営業統括代行 当社取締役名古屋支社長 当社常務取締役経営管理統括 当社専務取締役経営管理統括（現任）	(注) 2	22
取締役	大阪支社長	松 田 康 博	昭和32年 9 月10日生	昭和55年 4 月 平成20年 5 月 平成21年 5 月 平成23年 6 月	当社入社 当社東京支社副支社長 当社北関東支社長 当社取締役大阪支社長（現任）	(注) 2	7
取締役	東京支社長	村 山 功	昭和32年 7 月17日生	昭和56年 4 月 平成16年 4 月 平成20年 5 月 平成22年 6 月 平成24年 6 月	当社入社 当社業務部長 当社東北地区長兼仙台支店長 当社東北地区長 当社取締役東京支社長（現任）	(注) 2	7
取締役	名古屋支社長	島 俊 成	昭和31年 2 月18日生	昭和55年 4 月 平成13年 6 月 平成15年 6 月 平成16年 4 月 平成17年 4 月 平成17年 6 月 平成20年 5 月 平成21年 7 月 平成24年 6 月 平成25年 6 月	当社入社 当社総務部長 当社総務部長兼中期経営計画推進担当 当社総務部長 当社総務部長兼営業部長 当社営業部長 当社総務部長 北海道名鉄運輸㈱取締役社長 当社取締役総務部長 当社取締役名古屋支社長（現任）	(注) 2	5
取締役	関連事業部長兼 内部統制室長	榊 原 勝 則	昭和33年 5 月15日生	昭和56年 4 月 平成18年 4 月 平成19年 6 月 平成20年 6 月 平成22年 6 月 平成24年 4 月 平成25年 6 月	当社入社 当社経営企画部長兼情報システム部長 当社取締役経営企画部長兼情報システム部長 当社取締役人事部長兼情報システム部長 当社取締役人事部長 当社取締役名古屋支社長 当社取締役関連事業部長兼内部統制室長（現任）	(注) 2	13

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
取締役	営業部長	亀 崎 剛	昭和35年 5 月 6 日生	昭和58年 4 月 平成15年 6 月 平成16年 4 月 平成17年 8 月 平成18年 8 月 平成21年 5 月 平成24年 4 月 平成25年 6 月	当社入社 当社名古屋支社副支社長兼小牧支店長 当社北関東支社長 当社首都圏本部部長 当社北関東支社長 当社名古屋支社長 当社営業部長（現任） 当社取締役営業部長（現任）	(注) 3	4
取締役	財務部長	吉 川 篤 史	昭和37年12月14日生	昭和61年 4 月 平成21年 7 月 平成24年 7 月 平成25年 6 月 平成25年 6 月	名古屋鉄道㈱入社 当社総務部長 当社人事部長 当社内部統制室長 当社取締役財務部長（現任）	(注) 3	—
取締役	非常勤	中 島 慎 太 郎	昭和25年 5 月22日生	昭和50年 4 月 平成17年 6 月 平成20年 6 月 平成21年 6 月 平成22年 6 月 平成22年 6 月	名古屋鉄道㈱入社 当社取締役総務部長 当社常務取締役名古屋支社長 四国名鉄運輸㈱専務取締役 四国名鉄運輸㈱取締役社長（現任） 当社取締役（現任）	(注) 2	17
取締役	非常勤	濱 正 典	昭和24年 8 月10日生	昭和47年 4 月 平成11年 6 月 平成15年 6 月 平成16年 4 月 平成17年 4 月 平成18年 4 月 平成19年 5 月 平成19年10月 平成24年 5 月 平成24年 6 月	当社入社 当社営業統括本部営業部長 当社取締役 当社取締役営業統括営業部長兼東京営業部長 当社取締役名古屋支社長 当社取締役営業統括代行 当社取締役九州地区長 九州名鉄運輸㈱取締役社長 名鉄急配㈱取締役社長（現任） 当社取締役（現任）	(注) 2	16
取締役	非常勤	田 中 明 彦	昭和31年 9 月14日生	昭和56年 4 月 平成19年 6 月 平成20年 6 月 平成21年 5 月 平成21年 5 月 平成22年 5 月	名古屋鉄道㈱入社 当社取締役品質管理部長 当社取締役営業部長兼品質管理部長 名鉄ゴールデン航空㈱取締役副社長 当社取締役（現任） 名鉄ゴールデン航空㈱取締役社長（現任）	(注) 2	10
取締役	非常勤	今 井 繁	昭和28年 1 月 9 日生	昭和51年 4 月 平成12年 6 月 平成18年 6 月 平成19年 5 月 平成20年 6 月 平成22年 6 月 平成23年 6 月 平成23年 6 月	名古屋鉄道㈱入社 中日本エアラインサービス㈱取締役 国際エアラインサービス㈱取締役副社長 ANA中部空港㈱取締役副社長 東鉄商事㈱取締役社長 信州名鉄運輸㈱専務取締役 信州名鉄運輸㈱取締役社長（現任） 当社取締役（現任）	(注) 2	—

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
取締役	非常勤	河 野 英 雄	昭和20年4月15日生	昭和43年4月 平成4年12月 平成7年11月 平成12年6月 平成16年5月 平成22年6月 平成22年6月 平成23年6月	名古屋鉄道㈱入社 名鉄協商㈱取締役 名鉄協商㈱常務取締役 ㈱名鉄アオト取締役社長 名鉄協商㈱取締役社長 当社取締役（現任） 名古屋鉄道㈱取締役副会長 名古屋鉄道㈱取締役会長（現任）	(注) 2	—
取締役	非常勤	松 林 孝 美	昭和23年10月14日生	昭和46年4月 平成16年6月 平成17年6月 平成19年6月 平成19年6月 平成21年6月 平成21年6月 平成23年6月	名古屋鉄道㈱入社 名古屋鉄道㈱取締役 名古屋鉄道㈱常務取締役 当社監査役 名古屋鉄道㈱専務取締役 当社取締役 名古屋鉄道㈱取締役副社長（現任） 当社取締役（現任）	(注) 2	—
常任 監査役 (常勤)		高 木 義 博	昭和33年1月7日生	昭和55年4月 平成21年6月 平成23年6月	名古屋鉄道㈱入社 岐阜乗合自動車㈱取締役 当社常任監査役（現任）	(注) 4	3
監査役	非常勤	内 田 互	昭和31年9月7日生	昭和54年4月 平成17年7月 平成19年7月 平成20年7月 平成21年6月 平成22年7月 平成24年6月 平成24年6月	名古屋鉄道㈱入社 名古屋鉄道㈱監理部連結担当部長 名古屋鉄道㈱内部統制室長 名古屋鉄道㈱予算管理部長 名古屋鉄道㈱取締役 名古屋鉄道㈱取締役関連事業部長 当社監査役（現任） 名古屋鉄道㈱常務取締役財務部長 （現任）	(注) 5	—
監査役	非常勤	鈴 木 實	昭和25年3月15日生	昭和48年4月 平成11年6月 平成15年6月 平成17年6月 平成19年6月 平成24年6月	名古屋鉄道㈱入社 名古屋鉄道㈱関連事業部部長 名古屋鉄道㈱EXP0対策室長兼新空港対策室長 ㈱ZIP-FM取締役 中部国際空港㈱執行役員（現任） 当社監査役（現任）	(注) 5	—
計							127

(注) 1 監査役内田互、鈴木實は社外監査役であります。

- 平成24年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成26年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 平成25年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成26年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 平成23年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成27年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 平成24年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成27年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。

6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

企業統治の体制

当社は、運輸事業を公道での安全輸送を担う公共性のある事業と認識し、広く社会から信頼される公正かつ透明性の高いコーポレートガバナンス体制として、取締役会、監査役会の機能に有効性を持たせた意思決定、業務執行及び監視活動を行っております。

当社における企業統治の体制として有価証券報告書提出日現在、取締役は15名（うち非常勤取締役6名）で構成され、毎月1回の役員連絡会で重要な事項につき慎重かつ十分な検討を経て取締役会に付議決定しております。また、取締役会決議事項については、営業統括担当取締役並びに経営管理統括担当取締役が全国の営業拠点にその執行を指示すると同時に、その達成状況を取締役に報告させております。

監査役は社外監査役2名を含む3名からなり、監査役会が定めた監査の方針に従い取締役会、その他重要な会議に出席するほかその職務の執行状況を聴取し重要な決裁書類を閲覧するとともに、会計監査人から報告及び説明を受け厳正な監査を行っております。

内部統制システムの整備については、「名鉄グループ企業倫理基本方針」を遵守し、当社及びグループ各社に対しその周知・徹底を指導し、社長を責任者とする企業倫理委員会において、その徹底・運用状況の確認を行う体制を整えております。この委員会は、平成15年8月に設置されており、役員・従業員の法令・社内規則違反、企業倫理・社会良識の逸脱を未然に防止する施策を決定するとともに、不祥事が発生した場合には、情報収集、状況把握、原因究明、再発防止策の策定、情報公開を行う社長直轄組織として、常務取締役以上で構成されております。またグループ各社の業務の適正性の確保のため、重要事項については、当社への決裁・報告制度を義務付けております。グループ各社にコンプライアンス上問題があると認めた場合は、担当部署は直ちに担当取締役を通じて監査役に報告するとともに、改善策の策定を求める体制を整備しております。またグループ会社は、「名鉄運輸グループ財務報告に係る内部統制の整備、運用規則」に従い、財務報告に係る内部統制を適正に整備・運用するための体制を確立し、グループ統制関係部署は、「職務権限明細」に基づき、それぞれの主管部署について、グループ会社全般に係る政策の立案及びグループ会社の統制を実施しております。

リスク管理については、事業を取り巻くさまざまなリスクに対する管理・実践を可能とするために、「リスク管理規定」を策定し、社長を最高リスク管理者とし、全社的なリスク管理を指揮・監督、統括している。また日常業務の中で発生が予測される安全、品質、環境、財務処理、情報セキュリティ等に係るリスクの監視は、それぞれの担当部署が行い、予防のための研修の実施、マニュアルの作成・配布等を実施することとしており、新たに生じたリスクについては、取締役会においてすみやかに対応責任者となる取締役を定め、必要に応じてプロジェクトを組織して対応する体制としております。

内部監査及び監査役監査

内部監査については、内部統制室4名が内部管理体制の適切性、有効性を検証し、必要に応じて問題点の改善に関する提案とともに、その結果を社長に報告する体制をとっております。

監査役監査については、社外監査役に財務及び会計に関する知見を有する親会社の財務部長を選任し機能強化を図っており、監査役会が定めた監査の方針に従い取締役会、その他重要な会議に出席するほかその職務の執行状況を聴取し重要な決裁書類を閲覧しております。

監査役は会計監査人から、定期的及び必要に応じて会計監査実施概要の説明を受け、適時に意見交換を行うなど連携を図っております。また監査役は、内部統制室が実施した内部管理体制の適切性、有効性を検証した結果について報告を受け、適切な助言・指導を行っております。

社外取締役及び社外監査役

当社は社外取締役の選任はなく、社外監査役は2名であります。社外監査役内田亙は、当社の親会社である名古屋鉄道(株)の常務取締役であり、同氏と当社との間には人的関係、資本的关系又は取引関係その他の利害関係はありません。また、同社と当社との間には、平成25年3月末現在、同社が当社の発行済株式総数の50.46%を保有する資本関係にあります。当社と同社との取引額は軽微であり、その他の利害関係はありません。社外監査役鈴木實は中部国際空港(株)の執行役員であり、同氏と当社との間には人的関係、資本的关系又は取引関係その他の利害関係はありません。また、同社と当社との間には人的関係・資本的关系又は取引関係その他の利害関係はありません。

当社では社外取締役又は社外監査役を選任するための独立性に関する基準または方針を定めておりませんが、選任にあたり証券取引所が定める独立役員の独立性に関する判断基準を参考にしております。

なお、取締役については、当社は社外取締役としての選任はありませんが、親会社及び親会社のグループ会社の役員複数名が非常勤取締役となっており、親会社の連結経営体制の観点から公正かつ中立性をもって多面的な視点で常勤取締役の業務執行に対して適切な意見や助言を得られるガバナンス体制を採っており、社外取締役設置に準じた経営監視機能及び客観性を有していると判断しております。また、社外監査役については、豊富な知識や経験を有しており、当社の経営を適切に監査することができると判断し選任しております。

社外監査役については、財務部担当者が連絡調整業務と報告を行い、また必要に応じて常任（常勤）監査役が出向き、監査役間の情報を共有するための資料提出、意見交換を行っております。

役員の報酬等

イ 提出会社の役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額(百万円)				対象となる 役員の員数 (名)
		基本報酬	ストック オプション	賞与	退職慰労金	
取締役 (社外取締役を除く。)	96	84	—	—	11	20
監査役 (社外監査役を除く。)	10	10	—	—	—	1
社外役員	1	1	—	—	—	2

ロ 提出会社の役員ごとの連結報酬等の総額等

連結報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載しておりません。

ハ 使用人兼務役員の使用人給与のうち、重要なもの

該当事項はありません。

二 役員の報酬等の額の決定に関する方針

取締役及び監査役が受ける報酬等については、一定金額報酬として定めることとし、会社の業績、経済情勢、従業員給与、同職位の取締役の支給実績、その他報酬に影響を及ぼす事項等を勘案し相当と思われる額を基本としております。

取締役及び監査役の個人別の報酬内容の決定については、この基本方針に準拠し内規に基づき定めております。また、退任時に退職慰労金を支給することとし、報酬額及び在任年数等を勘案し内規に基づき定めております。

株式の保有状況

イ 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

銘柄数 59銘柄
貸借対照表計上額の合計額 1,659百万円

ロ 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的

(前事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表 計上額 (百万円)	保有目的
全日本空輸(株)	829,040	207	取引関係の円滑化
(株)テルモ	50,000	197	取引関係の円滑化
三井住友トラスト・ホールディングス(株)	687,503	187	資金調達の円滑化
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	430,280	177	資金調達の円滑化
(株)みずほフィナンシャルグループ	503,000	67	資金調達の円滑化
(株)オリバー	55,000	57	取引関係の円滑化
(株)三井住友フィナンシャルグループ	15,200	41	資金調達の円滑化
(株)上組	57,173	39	取引関係の円滑化
(株)住生活グループ	15,262	26	取引関係の円滑化
日本トランスシティ(株)	92,610	26	取引関係の円滑化
アキレス(株)	147,969	17	取引関係の円滑化
(株)トプコン	24,000	13	取引関係の円滑化
大同メタル工業(株)	12,000	12	取引関係の円滑化
東洋紡(株)	100,000	11	取引関係の円滑化
ブラザー工業(株)	9,010	10	取引関係の円滑化
リンナイ(株)	1,300	7	取引関係の円滑化
DIC(株)	33,390	5	取引関係の円滑化
菊水化学工業(株)	12,000	5	取引関係の円滑化
中央発條(株)	10,000	3	取引関係の円滑化
田中精密工業(株)	4,000	3	取引関係の円滑化
ダイナパック(株)	10,814	2	取引関係の円滑化
キムラユニティー(株)	3,400	2	取引関係の円滑化
キャノンマーケティングジャパン(株)	2,155	2	取引関係の円滑化
朝日印刷(株)	1,155	2	取引関係の円滑化
ナトコ(株)	3,000	2	取引関係の円滑化
東芝機械(株)	5,000	2	取引関係の円滑化
J.フロントリテイリング(株)	3,000	1	取引関係の円滑化
(株)大和証券グループ本社	2,000	0	取引関係の円滑化
(株)岡村製作所	1,000	0	取引関係の円滑化
東海東京フィナンシャル・ホールディングス(株)	1,837	0	取引関係の円滑化

(注) アキレス(株)ほか19銘柄は貸借対照表計上額が資本金額の100分の1以下であります。上位30銘柄について記載しております。

(当事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表 計上額 (百万円)	保有目的
三井住友トラスト・ホールディングス(株)	687,503	312	資金調達の円滑化
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	430,280	240	資金調達の円滑化
テルモ(株)	50,000	202	取引関係の円滑化
全日本空輸(株)	829,040	159	取引関係の円滑化
(株)みずほフィナンシャルグループ	503,000	100	資金調達の円滑化
(株)オリバー	55,000	68	取引関係の円滑化
(株)三井住友フィナンシャルグループ	15,200	57	資金調達の円滑化
(株)上組	59,000	51	取引関係の円滑化
日本トランスシティ(株)	92,610	34	取引関係の円滑化
(株)LIXILグループ	15,262	28	取引関係の円滑化
アキレス(株)	154,000	20	取引関係の円滑化
(株)トプコン	24,000	20	取引関係の円滑化
東洋紡(株)	100,000	16	取引関係の円滑化
大同メタル工業(株)	12,000	9	取引関係の円滑化
ブラザー工業(株)	9,010	8	取引関係の円滑化
リンナイ(株)	1,300	8	取引関係の円滑化
DIC(株)	33,390	6	取引関係の円滑化
菊水化学工業(株)	12,000	5	取引関係の円滑化
田中精密工業(株)	4,000	3	取引関係の円滑化
中央発條(株)	10,000	3	取引関係の円滑化
キムラユニティー(株)	3,400	3	取引関係の円滑化
朝日印刷(株)	1,155	3	取引関係の円滑化
キヤノンマーケティングジャパン(株)	2,155	2	取引関係の円滑化
ダイナパック(株)	10,814	2	取引関係の円滑化
東芝機械(株)	5,000	2	取引関係の円滑化
ナトコ(株)	3,000	2	取引関係の円滑化
J. フロントリテイリング(株)	3,000	2	取引関係の円滑化
(株)大和証券グループ本社	2,000	1	取引関係の円滑化
東海東京フィナンシャル・ホールディングス(株)	1,837	1	取引関係の円滑化
(株)岡村製作所	1,000	0	取引関係の円滑化

(注) 1 トプコン(株)ほか18銘柄は貸借対照表計上額が資本金額の100分の1以下であります。上位30銘柄について記載しております。

2 全日本空輸(株)は平成25年4月1日付で商号をANAホールディングス(株)に変更しております。

八 保有目的が純投資目的である投資株式

該当する銘柄はありません。

会計監査の状況

会計監査については、会社法に基づく会計監査人及び金融商品取引法に基づく監査人に有限責任 あずさ監査法人を選任し、同監査法人は、金融商品取引法に基づく内部統制監査も実施しております。同監査法人は、業務執行社員である井上嗣平（継続監査年数2年）、田中智司（継続監査年数7年）のほか、公認会計士6名、その他従事者3名を中心とした監査体制により、一般に公正妥当と認められる監査基準に準拠した適正な監査を行っております。なお、同監査法人及び当社監査に従事する同監査法人の業務執行社員と当社の間には特別の利害関係はありません。

取締役の定数及び任期

当社は、取締役の定数について、20名以内とする旨を定めております。

また、取締役の任期について、選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結のときまでとする旨を定めております。

取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数の決議によって選任する旨、また、累積投票によらないものとする旨を定めております。

株主総会決議事項のうち取締役会で決議できることとした事項

(1)自己の株式の取得

当社は、自己の株式の取得について、機動的な資本政策を遂行するため、会社法第165条第2項の規定に基づき、取締役会の決議によって市場取引等により自己の株式を取得できる旨を定款で定めております。

(2)剰余金の配当等の決定機関

当社は、株主への機動的な利益還元を可能とするため、会社法第454条第5項に定める剰余金の配当（中間配当）を取締役会決議により実施できる旨を定款で定めております。

株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款で定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に 基づく報酬(百万円)	非監査業務に 基づく報酬(百万円)	監査証明業務に 基づく報酬(百万円)	非監査業務に 基づく報酬(百万円)
提出会社	46	10	43	20
連結子会社	—	—	—	—
計	46	10	43	20

【その他重要な報酬の内容】

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

前連結会計年度

当社が監査公認会計士等に対して報酬を支払っている非監査業務の内容は、コンサルティング業務についての対価であります。

当連結会計年度

当社が監査公認会計士等に対して報酬を支払っている非監査業務の内容は、コンサルティング業務についての対価であります。

【監査報酬の決定方針】

該当事項はありませんが、監査日数等を勘案して決定しております。

第5 【経理の状況】

1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

- (1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号)に基づいて作成しております。
- (2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号)に基づいて作成しております。
- (3) 当社の連結財務諸表及び財務諸表は、従来、語尾を「である」調で記載しておりましたが、当連結会計年度及び当事業年度より「ですます」調の表現で記載することに変更いたしました。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(平成24年4月1日から平成25年3月31日まで)の連結財務諸表及び事業年度(平成24年4月1日から平成25年3月31日まで)の財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人により監査を受けております。

3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みとして、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、同機構が行う研修に参加する事により、会計基準等の内容を適切に把握し、又は会計基準等の変更等についての的確に対応することができるための体制を整備しております。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年 3 月31日)	当連結会計年度 (平成25年 3 月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1 600	1 553
受取手形及び営業未収入金	2, 3 13,707	2, 3 13,358
有価証券	2	2
貯蔵品	180	187
繰延税金資産	351	388
その他	925	939
貸倒引当金	101	37
流動資産合計	15,666	15,392
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	1, 4 35,753	1, 4 35,631
減価償却累計額	23,554	23,927
建物及び構築物（純額）	12,199	11,703
機械装置及び運搬具	1, 4 23,950	1, 4 25,539
減価償却累計額	17,558	18,123
機械装置及び運搬具（純額）	6,392	7,415
土地	1, 5 38,393	1, 5 38,239
リース資産	1,357	1,183
減価償却累計額	776	831
リース資産（純額）	581	351
その他	1,268	1,388
減価償却累計額	1,018	1,020
その他（純額）	249	367
有形固定資産合計	57,815	58,077
無形固定資産		
リース資産	243	119
その他	413	518
無形固定資産合計	656	637
投資その他の資産		
投資有価証券	1, 6 2,285	1, 6 2,403
長期貸付金	79	78
繰延税金資産	1,313	1,112
その他	6 2,465	6 2,462
貸倒引当金	70	92
投資その他の資産合計	6,073	5,964
固定資産合計	64,545	64,679
資産合計	80,212	80,071

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年 3 月31日)	当連結会計年度 (平成25年 3 月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び営業未払金	3 9,138	3 9,088
短期借入金	1 21,110	1 19,968
1年内返済予定の長期借入金	1 7,065	1 5,597
リース債務	365	189
未払法人税等	1,261	260
賞与引当金	258	234
その他	4,820	5,186
流動負債合計	44,019	40,525
固定負債		
長期借入金	1 12,469	1 14,799
リース債務	410	217
繰延税金負債	317	314
退職給付引当金	7,218	7,474
役員退職慰労引当金	150	153
資産除去債務	578	595
再評価に係る繰延税金負債	5 2,396	5 2,366
その他	435	414
固定負債合計	23,976	26,336
負債合計	67,996	66,861
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,065	2,065
資本剰余金	1,534	1,534
利益剰余金	5,942	6,703
自己株式	20	20
株主資本合計	9,523	10,283
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	173	424
土地再評価差額金	5 1,760	5 1,711
その他の包括利益累計額合計	1,933	2,135
少数株主持分	758	791
純資産合計	12,215	13,210
負債純資産合計	80,212	80,071

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】
【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)
売上高	89,689	92,289
売上原価	1 82,757	1 86,019
売上総利益	6,931	6,269
販売費及び一般管理費		
人件費	1,956	2,093
施設使用料	562	583
その他	1,219	1,298
販売費及び一般管理費合計	1 3,738	1 3,975
営業利益	3,192	2,293
営業外収益		
受取利息	2	3
受取配当金	52	54
持分法による投資利益	2	11
受取手数料	60	67
助成金収入	21	5
補助金収入	17	103
貸倒引当金戻入額	54	7
その他	145	91
営業外収益合計	357	344
営業外費用		
支払利息	401	328
その他	49	46
営業外費用合計	450	374
経常利益	3,099	2,263
特別利益		
固定資産売却益	2 137	2 162
負ののれん発生益	224	26
その他	2	18
特別利益合計	363	207
特別損失		
固定資産処分損	3 41	3 51
減損損失	5 373	5 80
投資有価証券売却損	0	114
退職給付費用	107	14
事業整理損	-	4 309
その他	68	86
特別損失合計	591	657
税金等調整前当期純利益	2,872	1,813
法人税、住民税及び事業税	1,575	951
法人税等調整額	833	19
法人税等合計	742	970
少数株主損益調整前当期純利益	2,129	842
少数株主利益	20	69
当期純利益	2,108	772

【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)
少数株主損益調整前当期純利益	2,129	842
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	21	255
土地再評価差額金	354	-
その他の包括利益合計	<u>332</u>	<u>255</u>
包括利益	2,462	1,097
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	2,440	1,023
少数株主に係る包括利益	22	73

【連結株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)
株主資本		
資本金		
当期首残高	2,065	2,065
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	2,065	2,065
資本剰余金		
当期首残高	1,534	1,534
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	1,534	1,534
利益剰余金		
当期首残高	3,872	5,942
当期変動額		
剰余金の配当	48	60
当期純利益	2,108	772
土地再評価差額金の取崩	8	48
当期変動額合計	2,069	760
当期末残高	5,942	6,703
自己株式		
当期首残高	19	20
当期変動額		
自己株式の取得	0	0
当期変動額合計	0	0
当期末残高	20	20
株主資本合計		
当期首残高	7,454	9,523
当期変動額		
剰余金の配当	48	60
当期純利益	2,108	772
土地再評価差額金の取崩	8	48
自己株式の取得	0	0
当期変動額合計	2,068	760
当期末残高	9,523	10,283

	前連結会計年度 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金		
当期首残高	196	173
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	23	251
当期変動額合計	23	251
当期末残高	173	424
土地再評価差額金		
当期首残高	1,414	1,760
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	345	48
当期変動額合計	345	48
当期末残高	1,760	1,711
その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	1,611	1,933
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	322	202
当期変動額合計	322	202
当期末残高	1,933	2,135
少数株主持分		
当期首残高	0	758
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	758	32
当期変動額合計	758	32
当期末残高	758	791
純資産合計		
当期首残高	9,066	12,215
当期変動額		
剰余金の配当	48	60
当期純利益	2,108	772
土地再評価差額金の取崩	8	48
自己株式の取得	0	0
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	1,080	234
当期変動額合計	3,149	994
当期末残高	12,215	13,210

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成23年 4月 1 日 至 平成24年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年 4月 1 日 至 平成25年 3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	2,872	1,813
減価償却費	2,989	3,199
減損損失	373	80
負ののれん発生益	224	26
貸倒引当金の増減額（ は減少）	6	42
賞与引当金の増減額（ は減少）	32	23
退職給付引当金の増減額（ は減少）	310	255
受取利息及び受取配当金	55	57
支払利息	401	328
持分法による投資損益（ は益）	2	11
固定資産除却損	18	13
固定資産売却損益（ は益）	126	159
投資有価証券評価損益（ は益）	-	32
投資有価証券売却損益（ は益）	0	104
売上債権の増減額（ は増加）	727	326
仕入債務の増減額（ は減少）	456	49
その他	461	175
小計	6,720	5,957
利息及び配当金の受取額	55	58
利息の支払額	394	326
割増退職金の支払額	48	106
法人税等の支払額	899	2,063
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,432	3,519
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	1,450	3,201
有形固定資産の売却による収入	185	341
無形固定資産の取得による支出	36	164
投資有価証券の取得による支出	13	13
投資有価証券の売却による収入	0	136
子会社株式の取得による支出	1	8
貸付けによる支出	3	3
貸付金の回収による収入	4	4
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	2 1,931	-
その他	76	63
投資活動によるキャッシュ・フロー	3,169	2,845
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（ は減少）	11,310	1,146
長期借入れによる収入	6,600	11,240
長期借入金の返済による支出	19,542	10,377
リース債務の返済による支出	331	370
自己株式の取得による支出	0	0
配当金の支払額	48	60
少数株主への配当金の支払額	-	5
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,012	721
現金及び現金同等物の増減額（ は減少）	250	47
現金及び現金同等物の期首残高	303	554
現金及び現金同等物の期末残高	1 554	1 506

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1 連結の範囲に関する事項

連結子会社の数 23社

主要な連結子会社の名称

「第1 企業の概況 4 関係会社の状況」に記載しているため省略しております。

なお、名鉄トラック運送(株)は清算終了により消滅しております。

2 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法を適用した関連会社数 1社

会社等の名称

「第1 企業の概況 4 関係会社の状況」に記載しているため省略しております。

(2) 持分法を適用しない関連会社のうち主要な会社等の名称

(株)近鉄エクスプレス四国

持分法を適用しない理由

持分法を適用していない関連会社は、当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等が連結財務諸表に及ぼす影響が軽微であり、かつ全体としても重要性がないため、持分法の適用範囲から除外しております。

3 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の決算日は、連結決算日と一致しております。

4 会計処理基準に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

(イ) 有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

連結会計年度末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております。)

時価のないもの

移動平均法に基づく原価法

(ロ) 貯蔵品

移動平均法に基づく原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

(イ) 有形固定資産(リース資産除く)

定額法によっております。

但し、一部の連結子会社は定率法によっております。定率法によっている連結子会社については、平成10年4月1日以降に取得した建物(建物付属設備を除く)について、定額法によっております。

なお、取得価額10万円以上20万円未満のものについては、3年間で均等償却をする方法を採用しております。

主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物及び構築物 7～50年

機械装置及び運搬具 2～15年

また、平成19年3月31日以前に取得したものについては、償却可能限度額まで償却が終了した翌年から5年間で均等償却する方法によっております。

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

一部の連結子会社は、法人税法の改正に伴い、当連結会計年度より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。

これによる当連結会計年度の営業利益、経常利益及び税金等調整前当期純利益に与える影響は軽微であります。

(ロ) 無形固定資産(リース資産除く)

定額法によっております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。

(ハ) リース資産

所有権移転ファイナンス・リース取引に係る資産

自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法によっております。

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係る資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零(残価保証のある場合は、残価保証額)とする定額法によっております。

なお、リース取引会計基準の改正適用初年度開始前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

(3) 重要な引当金の計上基準

(イ) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(ロ) 賞与引当金

従業員の賞与の支給に備えるため、将来の支給見込額のうち当連結会計年度負担額を計上しております。

(ハ) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当連結会計年度末に発生していると認められる額を計上しております。

なお、会計基準変更時差異については、15年による按分額を費用に計上しております。

過去勤務債務は、発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数(1～7年)による定額法により費用処理しております。

数理計算上の差異は、発生時における従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数(7～10年)による定額法(一部の連結子会社は定率法)により按分した額をそれぞれ発生した翌連結会計年度から費用処理しております。

(ニ) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく連結会計年度末要支給額を計上しております。

(4) 重要な売上高の計上基準

貨物運送運送収入及び航空利用運送収入は、当社及び当社連結子会社の各事業所において、荷主より運送を受託した日を基準として計上しております。

(5) 重要なヘッジ会計の方法

(イ) ヘッジ会計の方法

振当処理の要件を満たす通貨スワップについては振当処理を、特例処理の要件を満たす金利スワップについては特例処理を、それぞれ採用しております。

(ロ) ヘッジ手段とヘッジ対象

(ヘッジ手段)	(ヘッジ対象)
通貨スワップ及び金利スワップ	借入金

(ハ) ヘッジ方針

通貨スワップ取引は為替変動リスクを回避するのが目的であり、また金利スワップ取引は市場金利変動によるリスクを回避するのが目的であります。

(ニ) ヘッジ有効性評価の方法

通貨スワップ取引は振当処理を、金利スワップ取引は特例処理を採用しているため、有効性の評価を省略しております。

(6) のれんの償却方法及び償却期間

5年間で均等償却しております。

(7) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、要求払預金及び取得日から3か月以内に満期日の到来する流動性の高い、容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない短期的な投資からなっております。

(8) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっております。

(未適用の会計基準等)

- ・「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日)
- ・「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日)

(1) 概要

本会計基準等は、財務報告を改善する観点及び国際的な動向を踏まえ、未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用の処理方法、退職給付債務及び勤務費用の計算方法並びに開示の拡充を中心に改正されたものであります。

(2) 適用予定日

平成26年3月期の期末より適用予定です。ただし、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の改正については平成27年3月期の期首より適用予定であります。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

影響額は、当連結財務諸表の作成時において評価中であります。

(表示方法の変更)

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前連結会計年度において「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に含めておりました「割増退職金の支払額」は、重要性が増したため、当連結会計年度より独立掲記することとしております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替を行っております。

この結果、前連結会計年度の連結キャッシュ・フロー計算書において、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に表示していた412百万円は、「割増退職金の支払額」48百万円、「その他」461百万円として組み替えております。

(連結貸借対照表関係)

1 担保に供している資産

(1) 道路交通事業財団の組成

	前連結会計年度 (平成24年 3 月31日)	当連結会計年度 (平成25年 3 月31日)
(担保物件)		
建物及び構築物	2,288百万円	2,144百万円
機械装置及び運搬具	134 "	82 "
土地	11,347 "	12,206 "
計	13,771百万円	14,434百万円
(対応債務)		
1年内返済予定長期借入金	2,062百万円	2,062百万円
長期借入金	5,287 "	5,070 "
計	7,350百万円	7,133百万円

(2) その他

	前連結会計年度 (平成24年 3 月31日)	当連結会計年度 (平成25年 3 月31日)
(担保物件)		
建物及び構築物	837百万円	804百万円
土地	3,558 "	3,457 "
預金	7 "	7 "
投資有価証券	253 "	171 "
計	4,657百万円	4,441百万円
(対応債務)		
割引手形	38百万円	50百万円
短期借入金	1,693 "	1,204 "
1年内返済予定長期借入金	679 "	616 "
長期借入金	650 "	331 "
計	3,062百万円	2,203百万円

2 受取手形割引高及び受取手形譲渡高

	前連結会計年度 (平成24年 3 月31日)	当連結会計年度 (平成25年 3 月31日)
受取手形割引高	646百万円	358百万円
受取手形裏書譲渡高	16 "	15 "

3 期末日満期手形の会計処理については、満期日に決済が行われたものとして処理しております。なお、当連結会計年度末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形を満期日に決済が行われたものとして処理しております。

	前連結会計年度 (平成24年 3 月31日)	当連結会計年度 (平成25年 3 月31日)
受取手形	106百万円	80百万円
支払手形	78 "	112 "

4 国庫補助金等により取得原価から控除した固定資産の圧縮記帳額

	前連結会計年度 (平成24年 3 月31日)	当連結会計年度 (平成25年 3 月31日)
建物及び構築物	5百万円	5百万円
機械装置及び運搬具	19 "	7 "

5 事業用土地の再評価

土地の再評価に関する法律(平成10年3月31日公布法律第34号)に基づき、事業用土地の再評価を行い、評価差額については、当該評価差額に係る税金相当額を「再評価に係る繰延税金負債」として負債の部に計上し、これを控除した金額を「土地再評価差額金」として純資産の部に計上しております。

- ・再評価の方法 土地の再評価に関する法律施行令(平成10年3月31日公布政令第119号)第2条第3号に定める固定資産税評価額により算定しております。

- ・再評価を行った年月日 平成14年3月31日

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
再評価を行った事業用土地の当期末における時価と再評価後の帳簿価額との差額	4,950百万円	5,294百万円

6 関連会社に対するものは、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
投資有価証券(株式)	115百万円	125百万円
その他(出資金)	1 "	1 "

(連結損益計算書関係)

1 引当金繰入額

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
貸倒引当金繰入額	72百万円	16百万円
賞与引当金繰入額	258 "	234 "
役員退職慰労引当金繰入額	32 "	35 "

2 固定資産売却益の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
機械装置及び運搬具売却益	137百万円	157百万円
有形固定資産その他売却益	—	5 "
計	137百万円	162百万円

3 固定資産処分損の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
建物及び構築物除却損	7百万円	8百万円
機械装置及び運搬具売却損	9 "	1 "
機械装置及び運搬具除却損	8 "	3 "
土地売却損	1 "	1 "
有形固定資産その他売却損	0 "	—
有形固定資産その他除却損	2 "	1 "
無形固定資産除却損	—	0 "
その他	12 "	34 "
計	41百万円	51百万円

4 事業整理損

当連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

三陸貨物㈱及び大阪名鉄急配㈱の会社解散に伴い発生した損失であります。

5 減損損失

前連結会計年度(自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)

当社グループは、以下の資産グループについて減損損失を計上しております。

用 途	種 類	場 所	減損損失(百万円)
営業所施設	土地、建物等	栃木県那須塩原市ほか	353
営業設備	運搬具	札幌市白石区	2
遊休資産	土地、無形固定資産	富山県富山市ほか	18
合 計			373

当社グループは、管理会計上の区分を基礎にグルーピングを行っておりますが、現在未稼働で今後も事業の用に供する予定のないものについては遊休資産としてグルーピングしております。

上記の資産については収益性が著しく低下したことにより、投資の回収が困難と見込まれるため帳簿価額相当額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。

なお、当資産グループの回収可能価額は、正味売却価額または使用価値により測定しております。正味売却価額については、不動産鑑定評価基準に基づく鑑定評価額または固定資産税評価額に合理的な調整を行って算出した金額を使用しております。また、使用価値については、将来キャッシュフローを2.0%で割り引いて算定しております。

当連結会計年度(自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)

当社グループは、以下の資産グループについて減損損失を計上しております。

用 途	種 類	場 所	減損損失(百万円)
営業所施設	土地、建物等	三重県亀山市ほか	23
営業設備	運搬具等	神奈川県足柄上郡中井町ほか	2
遊休資産	土地、無形固定資産	宮城県気仙沼市ほか	55
合 計			80

当社グループは、管理会計上の区分を基礎にグルーピングを行っておりますが、現在未稼働で今後も事業の用に供する予定のないものについては遊休資産としてグルーピングしております。

上記の資産については収益性が著しく低下したことにより、投資の回収が困難と見込まれるため帳簿価額相当額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。

なお、当資産グループの回収可能価額は、正味売却価額または使用価値により測定しております。正味売却価額については、不動産鑑定評価基準に基づく鑑定評価額または固定資産税評価額に合理的な調整を行って算出した金額を使用しております。また、使用価値については、将来キャッシュフローを1.5%で割り引いて算定しております。

(連結包括利益計算書関係)

1 その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)
その他有価証券評価差額金		
当期発生額	41百万円	220百万円
組替調整額	0 "	147 "
税効果調整前	41百万円	368百万円
税効果額	20 "	112 "
その他有価証券評価差額金	21百万円	255百万円
土地再評価差額金		
税効果額	354百万円	—
土地再評価差額金	354百万円	—
その他包括利益合計	332百万円	255百万円

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(千株)	24,402	—	—	24,402

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(千株)	99	2	—	102

(変動事由の概要)

増加数の主な内訳は、次のとおりであります。
単元未満株式の買取りによる増加 2千株

3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成23年 6 月24日 定時株主総会	普通株式	48	2.00	平成23年 3 月31日	平成23年 6 月27日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成24年 6 月26日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	60	2.50	平成24年 3 月31日	平成24年 6 月27日

当連結会計年度(自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(千株)	24,402	—	—	24,402

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(千株)	102	4	—	106

(変動事由の概要)

増加数の主な内訳は、次のとおりであります。
単元未満株式の買取りによる増加 4千株

3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成24年 6 月26日 定時株主総会	普通株式	60	2.50	平成24年 3 月31日	平成24年 6 月27日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成25年 6 月25日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	85	3.50	平成25年 3 月31日	平成25年 6 月26日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
現金及び預金勘定	600百万円	553百万円
中期国債ファンド	2 "	2 "
担保提供している預金	7 "	7 "
預入期間が3か月を超える定期預金	41 "	41 "
現金及び現金同等物	554百万円	506百万円

2 株式の取得により新たに連結子会社となった会社の資産及び負債の主な内訳

前連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

株式の取得により新たに四国名鉄運輸(株)及びその子会社5社を連結したことに伴う連結開始時の資産及び負債の内訳並びに株式の取得価額と取得による支出(純額)との関係は次のとおりであります。

流動資産	2,460百万円
固定資産	5,910 "
流動負債	3,508 "
固定負債	1,877 "
負ののれん	224 "
少数株主持分	736 "
既所有分	37 "
株式の取得価額	1,986百万円
現金及び現金同等物	54 "
差引：株式の取得による支出	1,931百万円

(リース取引関係)

リース取引開始日が平成20年3月31日以前の所有権移転外ファイナンス・リース取引

(借主側)

(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額、減損損失累計額相当額及び期末残高相当額

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)			
	取得価額相当額	減価償却累計額 相当額	減損損失累計額 相当額	期末残高相当額
建物及び 構築物（建物）	3,225	1,508	—	1,716
機械装置及び運搬具	3,509	2,158	203	1,147
その他の有形固定資産 （工具器具及び備品）	656	550	11	94
無形固定資産	35	18	16	0
合計	7,427	4,236	231	2,959

(単位：百万円)

	当連結会計年度 (平成25年3月31日)			
	取得価額相当額	減価償却累計額 相当額	減損損失累計額 相当額	期末残高相当額
建物及び 構築物（建物）	3,225	1,665	—	1,559
機械装置及び運搬具	2,118	1,320	95	703
その他の有形固定資産 （工具器具及び備品）	31	29	—	1
無形固定資産	—	—	—	—
合計	5,375	3,015	95	2,264

(2) 未経過リース料期末残高相当額及びリース資産減損勘定期末残高

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
1年内	678	381
1年超	3,000	2,554
合計	3,678	2,935

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
リース資産減損勘定期末残高	60	27

(3) 支払リース料、リース資産減損勘定取崩、減価償却費相当額及び支払利息相当額

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
支払リース料	1,030	874
リース資産減損勘定取崩	55	32
減価償却費相当額	674	545
支払利息相当額	235	215

(4) 減価償却費相当額及び利息相当額の算定方法

減価償却費相当額の算定方法

- ・リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

利息相当額の算定方法

- ・リース料総額とリース物件の取得価額相当額との差額を利息相当額とし、各期への配分方法については、利息法によっております。

1. ファイナンス・リース取引

(借主側)

所有権移転ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

- ・無形固定資産

航空利用運送事業における輸送管理用ソフトウェアであります。

リース資産の減価償却の方法

自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法によっております。

所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

- ・有形固定資産

主として、貨物自動車運送事業における輸送管理用ハードウェアであります。

- ・無形固定資産

主として、貨物自動車運送事業における輸送管理用ソフトウェアであります。

リース資産の減価償却の方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零（残価保証のある場合は残価保証額）とする定額法によっております。

2. オペレーティング・リース取引

(借主側)

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
1年内	266	256
1年超	1,545	1,288
合計	1,811	1,545

(金融商品関係)

１．金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に関する取組方針

当社グループは、資金運用については短期的な預金等に限定し、また、資金調達については当社の兄弟会社でありグループファイナンス事業を営む㈱名鉄マネジメントサービス及び銀行等金融機関からの借入による方針であります。

デリバティブは、後述するリスクを回避するために利用し、投機的な取引は行っておりません。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である受取手形及び営業未収入金は、顧客の信用リスクに晒されております。当該リスクに関しては、取引開始に際し信用状況を把握し、取引開始後には取引先ごとの期日管理及び残高管理を行う等の与信管理体制としております。

投資有価証券である株式は、市場価額の変動リスクに晒されておりますが、主に業務上の関係を有する企業の株式であり、定期的に把握された時価が取締役会に報告されております。

営業債務である支払手形及び営業未払金は、そのほとんどが１年以内の支払期日であります。

借入金のうち、短期借入金は主に営業取引に係る資金調達であり、長期借入金（原則として５年以内）は主に設備投資に係る資金調達であります。外貨建ての借入金は為替の変動リスクに、また、変動金利の借入金は金利の変動リスクにそれぞれ晒されておりますが、このうち長期のものの一部については、為替及び支払金利の変動リスクを回避するために、個別契約ごとにデリバティブ取引（通貨スワップ取引または金利スワップ取引）をヘッジ手段として利用しております。ヘッジの有効性の評価方法については、通貨スワップ取引については通貨スワップの振当処理の要件を、また金利スワップ取引については金利スワップの特例処理の要件をそれぞれ満たしているため、その判定をもって有効性の評価を省略しております。

デリバティブ取引の執行・管理については、財務部による稟議等により行っており、また、デリバティブの利用にあたっては、信用リスクを軽減するために、格付の高い金融機関とのみ取引を行っております。

また、営業債務や借入金は、流動性リスクに晒されておりますが、当社グループでは、キャッシュマネジメントシステムを利用し、グループ全体の資金を包括的に管理する体制としております。

(3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません((注2)を参照ください。)

前連結会計年度(平成24年3月31日)

(単位：百万円)

	連結貸借対照表 計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	600	600	—
(2) 受取手形及び営業未収入金	13,707	13,707	—
(3) 投資有価証券 その他有価証券	1,672	1,672	—
合計	15,980	15,980	
(4) 支払手形及び営業未払金	9,138	9,138	—
(5) 短期借入金	21,110	21,110	—
(6) 長期借入金 (1 年以内返済予定を含む)	19,534	19,596	62
合計	49,783	49,845	62
デリバティブ取引	—	—	—

当連結会計年度(平成25年3月31日)

(単位：百万円)

	連結貸借対照表 計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	553	553	—
(2) 受取手形及び営業未収入金	13,358	13,358	—
(3) 投資有価証券 その他有価証券	1,783	1,783	—
合計	15,695	15,695	—
(4) 支払手形及び営業未払金	9,088	9,088	—
(5) 短期借入金	19,968	19,968	—
(6) 長期借入金 (1 年以内返済予定を含む)	20,396	20,515	118
合計	49,454	49,572	118
デリバティブ取引	—	—	—

(注1) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資 産

(1) 現金及び預金、並びに(2) 受取手形及び営業未収入金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっております。

なお、投資有価証券はその他有価証券として保有しており、これに関する注記事項については、「有価証券関係」に記載しております。

負債

(4) 支払手形及び営業未払金、並びに(5) 短期借入金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(6) 長期借入金（１年以内返済予定を含む）

これらの時価については、元利金の合計額を、新規に同様の借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。一部の外貨建の長期借入金は、通貨スワップの振当処理の対象とされ、また一部の変動金利による長期借入金は、金利スワップの特例処理の対象とされており、これらの時価は、取引金融機関から提示された当該金利スワップ等の評価額に基づいて算定する方法によっております。

デリバティブ取引

「デリバティブ取引関係」の注記を参照ください。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の連結貸借対照表計上額

(単位：百万円)

区分	平成24年３月31日	平成25年３月31日
非上場株式	613	620

上記については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と考えられるため、「(3) 投資有価証券」には含めておりません。

(注3) 金銭債権の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(平成24年３月31日)

(単位：百万円)

区分	１年以内	１年超 ５年以内	５年超 10年以内	10年超
現金及び預金	600	—	—	—
受取手形及び営業未収入金	13,707	—	—	—
合計	14,308	—	—	—

当連結会計年度(平成25年３月31日)

(単位：百万円)

区分	１年以内	１年超 ５年以内	５年超 10年以内	10年超
現金及び預金	553	—	—	—
受取手形及び営業未収入金	13,358	—	—	—
合計	13,912	—	—	—

(注4) 短期借入金及び長期借入金の連結決算日後の返済予定額

前連結会計年度(平成24年３月31日)

(単位：百万円)

区分	１年以内	１年超 ２年以内	２年超 ３年以内	３年超 ４年以内	４年超 ５年以内	５年超
短期借入金	21,110	—	—	—	—	—
長期借入金	7,065	6,461	1,997	2,914	756	339
合計	28,175	6,461	1,997	2,914	756	339

当連結会計年度(平成25年３月31日)

(単位：百万円)

区分	１年以内	１年超 ２年以内	２年超 ３年以内	３年超 ４年以内	４年超 ５年以内	５年超
短期借入金	19,968	—	—	—	—	—
長期借入金	5,597	3,841	4,608	2,080	3,994	274
合計	25,565	3,841	4,608	2,080	3,994	274

(有価証券関係)

１．その他有価証券

前連結会計年度(平成24年３月31日)

	種類	連結貸借対照表 計上額(百万円)	取得原価(百万円)	差額(百万円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	(1) 株式	1,327	898	429
	(2) 債券			
	国債・地方債	—	—	—
	社債	—	—	—
	その他	—	—	—
	(3) その他	—	—	—
	小計	1,327	898	429
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	(1) 株式	344	463	118
	(2) 債券			
	国債・地方債	—	—	—
	社債	—	—	—
	その他	—	—	—
	(3) その他	—	—	—
	小計	344	463	118
合計		1,672	1,361	310

当連結会計年度(平成25年３月31日)

	種類	連結貸借対照表 計上額(百万円)	取得原価(百万円)	差額(百万円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	(1) 株式	1,495	764	731
	(2) 債券			
	国債・地方債	—	—	—
	社債	—	—	—
	その他	—	—	—
	(3) その他	—	—	—
	小計	1,495	764	731
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	(1) 株式	287	340	52
	(2) 債券			
	国債・地方債	—	—	—
	社債	—	—	—
	その他	—	—	—
	(3) その他	—	—	—
	小計	287	340	52
合計		1,783	1,104	678

２．連結会計年度中に売却したその他有価証券

前連結会計年度(自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)

種類	売却額(百万円)	売却益の合計額(百万円)	売却損の合計額(百万円)
(1) 株式	0	0	0
(2) 債券			
国債・地方債	—	—	—
社債	—	—	—
その他	—	—	—
(3) その他	—	—	—
合計	0	0	0

当連結会計年度(自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)

種類	売却額(百万円)	売却益の合計額(百万円)	売却損の合計額(百万円)
(1) 株式	123	—	114
(2) 債券			
国債・地方債	—	—	—
社債	—	—	—
その他	—	—	—
(3) その他	—	—	—
合計	123	—	114

３．減損処理を行った有価証券

当連結会計年度において、その他有価証券で時価のある株式について32百万円減損処理を行っております。

なお、当該有価証券の減損にあたっては、個々の銘柄について、当連結会計年度末の時価が取得原価に比べて50%以上下落した場合、及び前連結会計年度末及び当連結会計年度末の時価が取得原価に比べて40%以上50%未満下落した場合は、原則として回復可能性がないものと判断して減損処理を行っております。

(デリバティブ取引関係)

1 ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

該当取引はありません。

2 ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

(1) 通貨関連

当連結会計年度(平成25年 3月31日)

(単位：百万円)

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額等	契約額等のうち 1年超	時価
通貨スワップ の振当処理	通貨スワップ取引 支払固定・受取変動 円支払・米ドル受取	長期借入金	1,352	1,216	(注)

(注)通貨スワップの振当処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

(2) 金利関連

前連結会計年度(平成24年 3月31日)

(単位：百万円)

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額等	契約額等のうち 1年超	時価
金利スワップ の特例処理	金利スワップ取引 支払固定・受取変動	長期借入金	3,225	1,895	(注)

(注)金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

当連結会計年度(平成25年 3月31日)

(単位：百万円)

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額等	契約額等のうち 1年超	時価
金利スワップ の特例処理	金利スワップ取引 支払固定・受取変動	長期借入金	5,673	4,966	(注)

(注)金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

[次へ](#)

(退職給付関係)

1 採用している退職給付制度の概要

前連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

(1) 当社及び連結子会社の退職給付制度

当社及び連結子会社は、確定給付型の制度(退職一時金制度及び厚生年金基金制度)、確定拠出年金制度及び前払退職金制度を設けております。また、従業員の退職等に際して割増退職金を支払う場合があります。

なお、当社は保有する上場株式による退職給付信託を設定しております。

また、要拠出額を退職給付費用として処理している複数事業主制度に関する事項は、(2)制度別の補足説明(b)厚生年金基金制度に記載の通りであります。

(2) 制度別の補足説明

(a) 退職一時金制度

	設定時期
当社及び連結子会社(12社)	会社設立時等
四国名鉄運輸(株)ほか1社を連結子会社としており、名鉄トラック運送(株)ほか1社は会社解散及び合併により制度を廃止しました。	

(b) 厚生年金基金制度

名鉄トラック運送(株)は、会社解散に伴い平成24年3月に栃木県トラック事業厚生年金基金を脱退しました。

(c) 確定拠出年金制度及び前払退職金制度

	設定時期
当社	平成16年
名鉄ゴールデン航空(株)	平成20年
東北名鉄運輸(株)	平成22年

当連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

(1) 当社及び連結子会社の退職給付制度

当社及び連結子会社は、退職一時金制度、確定拠出年金制度及び前払退職金制度を設けております。また、従業員の退職等に際して割増退職金を支払う場合があります。

なお、当社は保有する上場株式による退職給付信託を設定しております。

(2) 制度別の補足説明

(a) 退職一時金制度

	設定時期
当社及び連結子会社(10社)	会社設立時等
三陸貨物(株)ほか1社は会社解散により制度を廃止しました。	

(b) 確定拠出年金制度及び前払退職金制度

	設定時期
当社	平成16年
名鉄ゴールデン航空(株)	平成20年
東北名鉄運輸(株)	平成22年

2 退職給付等の内容

(1) 退職一時金制度

(a) 退職給付債務に関する事項

	(前連結会計年度)	(当連結会計年度)
	百万円	百万円
イ 退職給付債務	9,253	9,062
ロ 年金資産（退職給付信託を含む）	45	74
ハ 未積立退職給付債務(イ + ロ)	9,207	8,988
ニ 会計基準変更時差異の未処理額	1,564	1,035
ホ 未認識の数理計算上の差異	407	467
ヘ 未認識過去勤務債務	16	11
ト 連結貸借対照表計上額純額 (ハ + ニ + ホ + ヘ)	7,218	7,474
チ 前払年金費用	—	—
リ 退職給付引当金(ト - チ)	7,218	7,474

(注) 一部の連結子会社は、退職給付債務の算定にあたり、簡便法を採用しております。

(b) 退職給付費用に関する事項

	(前連結会計年度)	(当連結会計年度)
	百万円	百万円
イ 勤務費用 1	542	591
ロ 利息費用	155	171
ハ 期待運用収益	—	—
ニ 会計基準変更時差異の費用処理額	528	524
ホ 数理計算上の差異の費用処理額	7	27
ヘ 過去勤務債務の費用処理額	5	17
ト 退職給付費用(イ + ロ + ハ + ニ + ホ + ヘ)	1,224	1,332
チ 退職給付制度改定等に伴う損益 2	72	—
合計	1,296	1,332

(注) 1 簡便法を採用している連結子会社の退職給付費用は、「イ 勤務費用」に計上しております。

2 前連結会計年度は、当社の連結子会社である三陸貨物㈱及び名鉄トラック運送㈱において、制度の終了または一部終了に伴う損失が発生したことによるものであります。

(c) 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

	(前連結会計年度)	(当連結会計年度)
イ 退職給付見込額の期間配分方法	期間定額基準	同 左
ロ 割引率	1.0～2.0%	0.9～2.0%
ハ 期待運用収益率 1	0.0%	同 左
ニ 数理計算上の差異の処理年数 2	7年～10年	同 左
ホ 過去勤務債務の処理年数 3	7年	1年～7年
ヘ 会計基準変更時差異の処理年数	15年	同 左

(注) 1 期待運用収益率は、退職給付信託に係るものであります。

2 各連結会計年度における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数により按分した額をそれぞ

れ発生翌連結会計年度から費用処理することにしてあります。

3 各連結会計年度における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数により按分した額をそれぞ

れ発生時から費用処理することにしてあります。

(2) 確定拠出年金制度及び前払退職金制度
退職給付費用に関する事項

	(前連結会計年度)	(当連結会計年度)
	百万円	百万円
退職給付費用	159	168

(ストック・オプション等関係)
該当事項はありません。

(税効果会計関係)

(1) 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
繰延税金資産		
未払事業税否認額	102百万円	32百万円
賞与引当金	100 "	90 "
退職給付引当金	2,701 "	2,766 "
減損損失否認額	864 "	719 "
固定資産未実現利益修正	189 "	187 "
貸倒引当金損金算入超過額	159 "	259 "
ゴルフ会員権評価損否認額	12 "	12 "
税務上の繰越欠損金	103 "	401 "
有価証券評価損否認額	118 "	112 "
資産除去債務	211 "	214 "
その他	208 "	168 "
繰延税金資産小計	4,771百万円	4,965百万円
評価性引当額	2,068 "	2,346 "
繰延税金資産合計	2,703百万円	2,619百万円
繰延税金負債		
資産除去債務に対応する 除去費用	61百万円	58百万円
資産圧縮積立金	763 "	730 "
退職給付信託設定益	64 "	64 "
その他有価証券評価差額	93 "	205 "
その他	372 "	373 "
繰延税金負債合計	1,356百万円	1,433百万円
繰延税金資産(負債)の純額	1,347百万円	1,185百万円

繰延税金資産及び負債の純額は、連結貸借対照表の以下の項目に含まれております。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
流動資産 - 繰延税金資産	351百万円	388百万円
固定資産 - 繰延税金資産	1,313 "	1,112 "
流動負債 - その他	—	1 "
固定負債 - 繰延税金負債	317 "	314 "

上記のほか、下記の再評価に係る繰延税金負債を計上しております。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
固定負債 - 再評価に係る繰延税金負債	2,396百万円	2,366百万円

(2) 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成24年 3月31日)	当連結会計年度 (平成25年 3月31日)
法定実効税率	40.6%	37.7%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	2.2 "	1.8 "
住民税均等割	3.8 "	6.2 "
法人税等追徴税額	0.1 "	1.5 "
繰越欠損金の当期控除額	2.0 "	3.9 "
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	0.4 "	1.1 "
清算予定子会社に対する貸倒引当金	3.9 "	6.2 "
のれん及び負ののれんの償却額	3.2 "	0.5 "
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	3.1 "	—
復興特別法人税分の税率差異	—	1.2 "
評価性引当額	14.7 "	16.5 "
その他	0.2 "	0.4 "
税効果会計適用後の法人税等の負担率	25.8%	53.6%

(資産除去債務関係)

資産除去債務のうち連結貸借対照表に計上しているもの

(1) 当該資産除去債務の概要

当社グループの営業所施設土地、建物の不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務等であります。

(2) 当該資産除去債務の金額の算定方法

前連結会計年度（平成24年 3月31日）

使用見込期間を取得から19年～50年と見積り、割引率は2.031%～2.303%を使用して資産除去債務の金額を計算しております。

当連結会計年度（平成25年 3月31日）

使用見込期間を取得から15年～50年と見積り、割引率は1.380%～2.303%を使用して資産除去債務の金額を計算しております。

(3) 当該資産除去債務の総額の増減

	前連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)
期首残高	572百万円	586百万円
有形固定資産の取得に伴う増加額	—	6 "
時の経過による調整額	10 "	10 "
資産除去債務の履行による減少額	8 "	—
見積りの変更による増減額	5 "	—
その他の増減額	7 "	8 "
期末残高	586百万円	595百万円

(賃貸等不動産関係)

当社及び一部の子会社では、賃貸等不動産を保有しておりますが、賃貸等不動産の総額に重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、主として提供するサービスの性質及び経営組織の形態に基づいて事業を区分し、各事業ごとに包括的な戦略を立案し事業活動を展開しております。

従って、当社グループは事業を基礎としたサービス別セグメントから構成されており、「貨物自動車運送事業」、「航空利用運送事業」及び「流通事業」の3つを報告セグメントとしております。

「貨物自動車運送事業」は、混載貨物を主力とする商流貨物輸送業務を行っております。「航空利用運送事業」は、航空会社と代理店契約を締結し、国内及び海外の航空貨物及び小口荷物の輸送業務を行っております。「流通事業」は、流通加工業務や納品代行業務等を行っております。

2 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と同一であります。

報告セグメントの利益は、売上総利益ベースの数値であります。セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

3 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

（単位：百万円）

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	連結 財務諸表 計上額 (注) 3
	貨物 自動車 運送事業	航空利用 運送事業	流通事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	75,919	8,213	5,440	89,573	115	89,689	—	89,689
セグメント間の内部 売上高又は振替高	1,366	233	49	1,649	—	1,649	1,649	—
計	77,285	8,447	5,489	91,223	115	91,338	1,649	89,689
セグメント利益	5,675	666	632	6,974	81	7,056	125	6,931
セグメント資産	70,531	2,983	4,161	77,675	1,811	79,487	725	80,212
その他の項目								
減価償却費	2,770	129	76	2,976	12	2,989	—	2,989
減損損失	371	1	—	373	—	373	—	373
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	2,303	264	16	2,584	—	2,584	—	2,584

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産賃貸事業を含んでおります。

(注) 2 セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去であります。また、セグメント資産の調整額は、セグメント間債権消去 370百万円及び各報告セグメントに帰属しない全社資産1,095百万円であります。

(注) 3 セグメント利益は、連結財務諸表の売上総利益と調整を行っております。

当連結会計年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

（単位：百万円）

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	連結 財務諸表 計上額 (注) 3
	貨物 自動車 運送事業	航空利用 運送事業	流通事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	78,674	8,061	5,423	92,160	128	92,289	—	92,289
セグメント間の内部 売上高又は振替高	1,516	151	41	1,710	—	1,710	1,710	—
計	80,191	8,213	5,465	93,870	128	93,999	1,710	92,289
セグメント利益	5,303	504	473	6,281	93	6,374	105	6,269
セグメント資産	70,965	2,425	4,118	77,509	2,093	79,603	468	80,071
その他の項目								
減価償却費	2,973	132	77	3,183	15	3,199	—	3,199
減損損失	59	20	0	80	—	80	—	80
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	3,582	25	59	3,667	1	3,669	—	3,669

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産賃貸事業を含んでおります。

(注) 2 セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去であります。また、セグメント資産の調整額は、セグメント間債権消去 611百万円及び各報告セグメントに帰属しない全社資産1,080百万円であります。

(注) 3 セグメント利益は、連結財務諸表の売上総利益と調整を行っております。

【関連情報】

前連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、該当事項はありません。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

当連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、該当事項はありません。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

当連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

当連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

「貨物自動車運送事業」セグメントにおいて、当社が四国名鉄運輸㈱の株式を取得した際に、当社持分増加額が取得原価を上回ったため負ののれんが発生しました。これに伴い当連結会計年度において、224百万円の負ののれん発生益を計上しております。

当連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

「貨物自動車運送事業」セグメントにおいて、当社が四国名鉄運輸㈱の株式を追加取得した際に負ののれんが発生しました。これに伴い当連結会計年度において、26百万円の負ののれん発生益を計上しております。

【関連当事者情報】

1 関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者の取引

連結財務諸表提出会社と同一の親会社を持つ会社等及び連結財務諸表提出会社のその他の関係会社の子会社等

前連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
同一の親会社を持つ会社	(株)名鉄マネジメントサービス	名古屋市 中村区	100	グループファイナンス事業	なし	資金の貸付・借入 役員の兼任	短期資金借入貸付の純増減	13,701	短期借入金	14,878
							長期資金の返済	15,694	長期借入金 (1年内を含む)	5,085
							利息の支払	137	—	—

取引条件及び取引条件の決定方針等

(注) 1 記載金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておりません。

(注) 2 資金の貸付及び借入については、キャッシュマネジメントシステムを利用しており、取引金額については資金の借入残高の純増減額を記載しております。なお、当連結会計年度における同システムを利用した資金の貸付額は7百万円、借入額は23,240百万円であります。
貸付及び借入利率については、市場金利を勘案して利率を合理的に決定しており、資金の借入に対しては担保提供はありません。

当連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
同一の親会社を持つ会社	(株)名鉄マネジメントサービス	名古屋市 中村区	100	グループファイナンス事業	なし	資金の貸付・借入 役員の兼任	短期資金借入貸付の純増減	539	短期借入金	15,418
							長期資金の返済	5,085	—	—
							利息の支払	95	—	—

取引条件及び取引条件の決定方針等

(注) 1 記載金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておりません。

(注) 2 資金の貸付及び借入については、キャッシュマネジメントシステムを利用しており、取引金額については資金の借入残高の純増減額を記載しております。なお、当連結会計年度における同システムを利用した資金の貸付額は2,508百万円、借入額は25,557百万円です。
貸付及び借入利率については、市場金利を勘案して利率を合理的に決定しており、資金の借入に対しては担保提供はありません。

(2) 連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引

該当事項はありません。

2 親会社又は重要な関連会社に関する注記

(1) 親会社情報

名古屋鉄道(株) (東京証券取引所及び名古屋証券取引所に上場)

(2) 重要な関連会社の要約財務情報

該当事項はありません。

(1 株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)
1 株当たり純資産額	471円46銭	511円15銭
1 株当たり当期純利益	86円78銭	31円80銭

(注) 1 . 潜在株式調整後 1 株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 . 1 株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)
1 株当たり当期純利益		
当期純利益(百万円)	2,108	772
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る当期純利益(百万円)	2,108	772
普通株式の期中平均株式数(千株)	24,302	24,298

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	21,110	19,968	0.49	—
1年以内に返済予定の長期借入金	7,065	5,597	0.99	—
1年以内に返済予定のリース債務	365	189	2.01	—
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く)	12,469	14,799	0.76	平成26年4月26日～ 平成31年9月10日
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く)	410	217	2.43	平成26年9月30日～ 平成43年1月14日
その他有利子負債 社内預金	166	161	1.00	—
合計	41,587	40,933	—	—

(注) 1 「平均利率」については、借入金等の期末残高に対する加重平均利率を記載しております。

2 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年内における1年ごとの返済予定額の総額

区分	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
長期借入金	3,841	4,608	2,080	3,994
リース債務	97	68	30	1

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

	第 1 四半期 連結累計期間 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成24年 6 月30日)	第 2 四半期 連結累計期間 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成24年 9 月30日)	第 3 四半期 連結累計期間 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成24年12月31日)	第80期 連結会計年度 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)
売上高 (百万円)	23,301	46,139	70,358	92,289
税金等調整前 四半期(当期) 純利益 (百万円)	856	1,141	1,848	1,813
四半期(当期) 純利益 (百万円)	451	505	920	772
1 株当たり 四半期(当期) 純利益 (円)	18.56	20.80	37.89	31.80

	第 1 四半期 連結会計期間 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成24年 6 月30日)	第 2 四半期 連結会計期間 (自 平成24年 7 月 1 日 至 平成24年 9 月30日)	第 3 四半期 連結会計期間 (自 平成24年10月 1 日 至 平成24年12月31日)	第 4 四半期 連結会計期間 (自 平成25年 1 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)
1 株当たり 四半期純利益 又は 1 株当たり 四半期純損失 (円)	18.56	2.24	17.09	6.10

2【財務諸表等】
 (1)【財務諸表】
 【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成24年 3 月31日)	当事業年度 (平成25年 3 月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	340	358
受取手形	1, 2 903	1, 2 809
営業未収入金	2 6,742	2 6,650
貯蔵品	109	119
前払費用	252	257
繰延税金資産	193	236
関係会社短期貸付金	2,543	3,573
未収入金	256	339
その他	3	4
貸倒引当金	657	698
流動資産合計	10,687	11,651
固定資産		
有形固定資産		
建物	3, 4 15,964	3, 4 16,092
減価償却累計額	10,006	10,339
建物（純額）	5,957	5,753
構築物	3,656	3,663
減価償却累計額	2,804	2,851
構築物（純額）	852	811
機械及び装置	488	501
減価償却累計額	406	407
機械及び装置（純額）	81	93
車両運搬具	3, 4 7,584	3, 4 9,204
減価償却累計額	4,224	4,328
車両運搬具（純額）	3,359	4,875
工具、器具及び備品	518	655
減価償却累計額	403	418
工具、器具及び備品（純額）	115	236
土地	3, 5 27,891	3, 5 27,999
リース資産	708	574
減価償却累計額	516	501
リース資産（純額）	191	72
有形固定資産合計	38,450	39,842
無形固定資産		
借地権	151	151
ソフトウェア	69	188
リース資産	107	30
電話加入権	25	24
施設利用権	0	0
無形固定資産合計	354	394

	前事業年度 (平成24年 3 月31日)	当事業年度 (平成25年 3 月31日)
投資その他の資産		
投資有価証券	1,444	1,659
関係会社株式	4,604	4,613
出資金	40	39
長期貸付金	11	9
従業員に対する長期貸付金	4	3
関係会社長期貸付金	972	-
破産更生債権等	15	62
長期前払費用	5	2
差入保証金	1,265	1,266
繰延税金資産	260	41
その他	35	41
貸倒引当金	22	69
投資その他の資産合計	8,636	7,669
固定資産合計	47,441	47,906
資産合計	58,129	59,557
負債の部		
流動負債		
支払手形	1,770	1,800
営業未払金	² 3,318	² 3,341
短期借入金	² 19,146	² 18,568
1年内返済予定の長期借入金	³ 5,432	³ 4,030
リース債務	206	52
未払金	329	373
未払費用	813	833
未払法人税等	896	40
未払消費税等	253	163
預り金	290	339
前受収益	50	49
その他	946	1,286
流動負債合計	33,455	30,880
固定負債		
長期借入金	³ 9,869	³ 12,850
リース債務	52	-
退職給付引当金	4,286	4,498
役員退職慰労引当金	36	44
関係会社事業損失引当金	210	80
資産除去債務	313	326
再評価に係る繰延税金負債	⁵ 2,195	⁵ 2,165
その他	231	249
固定負債合計	17,195	20,215
負債合計	50,651	51,096

	前事業年度 (平成24年 3 月31日)	当事業年度 (平成25年 3 月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,065	2,065
資本剰余金		
その他資本剰余金	1,534	1,534
資本剰余金合計	1,534	1,534
利益剰余金		
利益準備金	4	10
その他利益剰余金		
資産圧縮積立金	869	828
繰越利益剰余金	1,386	2,303
利益剰余金合計	2,261	3,143
自己株式	20	20
株主資本合計	5,842	6,723
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	220	372
土地再評価差額金	5 1,414	5 1,365
評価・換算差額等合計	1,635	1,737
純資産合計	7,477	8,461
負債純資産合計	58,129	59,557

【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)	当事業年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)
売上高	53,041	53,031
売上原価	¹ 49,362	¹ 50,010
売上総利益	3,678	3,020
販売費及び一般管理費		
人件費	662	646
役員退職慰労引当金繰入額	7	11
減価償却費	127	140
施設使用料	456	458
租税公課	139	80
支払手数料	179	255
広告宣伝費	13	9
旅費交通費及び通信費	79	77
募集費	10	7
その他	124	80
販売費及び一般管理費合計	¹ 1,793	¹ 1,756
営業利益	1,885	1,264
営業外収益		
受取利息	45	34
受取配当金	584	439
受取手数料	49	49
受取派遣料	70	67
その他	85	85
営業外収益合計	¹ 836	¹ 676
営業外費用		
支払利息	289	237
関係会社事業損失引当金繰入額	² 10	² 8
その他	41	63
営業外費用合計	341	309
経常利益	2,380	1,630
特別利益		
固定資産売却益	³ 44	³ 78
その他	0	-
特別利益合計	45	78
特別損失		
固定資産処分損	⁴ 19	⁴ 18
減損損失	⁵ 27	⁵ 1
貸倒引当金繰入額	⁶ 273	⁶ 232
その他	63	0
特別損失合計	384	252
税引前当期純利益	2,042	1,456
法人税、住民税及び事業税	1,052	479
法人税等調整額	929	83
法人税等合計	123	562
当期純利益	1,918	894

【売上原価明細書】

		前事業年度 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)		当事業年度 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)	
区分	注記 番号	金額(百万円)	構成比 (%)	金額(百万円)	構成比 (%)
1 人件費		16,885	34.2	17,395	34.8
2 経費					
運送委託料		13,542		13,609	
連絡中継料		6,683		6,860	
取扱手数料		2,195		2,213	
燃料油脂費		1,864		1,818	
減価償却費		1,121		1,226	
施設使用料		3,048		2,867	
租税公課		405		388	
(うち事業所税)		(1)		(1)	
その他		3,615		3,631	
経費計		32,477	65.8	32,615	65.2
売上原価合計		49,362	100.0	50,010	100.0

【株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)	当事業年度 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)
株主資本		
資本金		
当期首残高	2,065	2,065
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	2,065	2,065
資本剰余金		
その他資本剰余金		
当期首残高	1,534	1,534
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	1,534	1,534
資本剰余金合計		
当期首残高	1,534	1,534
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	1,534	1,534
利益剰余金		
利益準備金		
当期首残高	-	4
当期変動額		
剰余金の配当	4	6
当期変動額合計	4	6
当期末残高	4	10
その他利益剰余金		
資産圧縮積立金		
当期首残高	832	869
当期変動額		
資産圧縮積立金の取崩	29	41
税率変更に伴う固定資産圧縮積立 金の変動額	67	-
当期変動額合計	37	41
当期末残高	869	828
繰越利益剰余金		
当期首残高	450	1,386
当期変動額		
剰余金の配当	53	66
資産圧縮積立金の取崩	29	41
税率変更に伴う固定資産圧縮積立 金の変動額	67	-
当期純利益	1,918	894
土地再評価差額金の取崩	8	48
当期変動額合計	1,836	917
当期末残高	1,386	2,303

	前事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)	当事業年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)
利益剰余金合計		
当期首残高	382	2,261
当期変動額		
剰余金の配当	48	60
資産圧縮積立金の取崩	-	-
税率変更に伴う固定資産圧縮積立金の 変動額	-	-
当期純利益	1,918	894
土地再評価差額金の取崩	8	48
当期変動額合計	1,879	882
当期末残高	2,261	3,143
自己株式		
当期首残高	19	20
当期変動額		
自己株式の取得	0	0
当期変動額合計	0	0
当期末残高	20	20
株主資本合計		
当期首残高	3,963	5,842
当期変動額		
剰余金の配当	48	60
当期純利益	1,918	894
土地再評価差額金の取崩	8	48
自己株式の取得	0	0
当期変動額合計	1,878	881
当期末残高	5,842	6,723
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金		
当期首残高	238	220
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純 額）	17	151
当期変動額合計	17	151
当期末残高	220	372
土地再評価差額金		
当期首残高	1,096	1,414
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純 額）	318	48
当期変動額合計	318	48
当期末残高	1,414	1,365
評価・換算差額等合計		
当期首残高	1,334	1,635
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純 額）	300	102
当期変動額合計	300	102
当期末残高	1,635	1,737

	前事業年度 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)	当事業年度 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)
純資産合計		
当期首残高	5,298	7,477
当期変動額		
剰余金の配当	48	60
当期純利益	1,918	894
土地再評価差額金の取崩	8	48
自己株式の取得	0	0
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	300	102
当期変動額合計	2,179	983
当期末残高	7,477	8,461

【注記事項】

(重要な会計方針)

1 有価証券の評価基準及び評価方法

(イ) 子会社株式及び関連会社株式

移動平均法に基づく原価法

(ロ) その他有価証券

時価のあるもの

事業年度末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております。)

時価のないもの

移動平均法に基づく原価法

2 たな卸資産の評価基準及び評価方法

貯蔵品

移動平均法に基づく原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)

3 固定資産の減価償却の方法

(イ) 有形固定資産(リース資産を除く)

定額法によっております。

なお、取得価額10万円以上20万円未満のものについては、3年間で均等償却をする方法を採用しております。

主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物 7～50年

車両運搬具 2～13年

また、平成19年3月31日以前に取得したものについては、償却可能限度額まで償却が終了した翌事業年度から5年間で均等償却する方法によっております。

(ロ) 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法によっております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。

(ハ) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係る資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

なお、リース取引会計基準の改正適用初年度開始前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた方法によっております。

4 引当金の計上基準

(イ) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(ロ) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当事業年度末に発生していると認められる額を計上しております。なお、会計基準変更時差異については、15年による按分額を費用に計上しております。数理計算上の差異は、発生時における従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数(9年)による定額法により按分した額をそれぞれ発生した翌事業年度から費用処理することにしております。

(ハ) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく事業年度末要支給額を計上しております。

(二) 関係会社事業損失引当金

関係会社に係る損失に備えるため、当該会社の財政状態等を勘案して、当社が負担することとなる損失見込額を計上しております。

5 売上高の計上基準

貨物運送収入は当社の各事業所において、荷主より貨物運送を受託した日を基準として計上しております。

6 ヘッジ会計の方法

(イ) ヘッジ会計の方法

振当処理の要件を満たす通貨スワップについては振当処理を、特例処理の要件を満たす金利スワップについては特例処理を、それぞれ採用しております。

(ロ) ヘッジ手段とヘッジ対象

(ヘッジ手段)	(ヘッジ対象)
通貨スワップ及び金利スワップ	借入金

(ハ) ヘッジ方針

通貨スワップ取引は為替変動リスクを回避するのが目的であり、また金利スワップ取引は市場金利変動によるリスクを回避するのが目的であります。

(二) ヘッジ有効性評価の方法

通貨スワップ取引は振当処理を、金利スワップ取引は特例処理を採用しているため、有効性の評価を省略しております。

7 その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっております。

(貸借対照表関係)

- 1 期末日満期手形の会計処理については、満期日に決済が行われたものとして処理しております。なお、当事業年度末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形を満期日に決済が行われたものとして処理しております。

	前事業年度 (平成24年 3 月31日)	当事業年度 (平成25年 3 月31日)
受取手形	43百万円	72百万円

2 関係会社に係る注記

受取手形・営業未収入金・営業未払金及び短期借入金のうち関係会社に対するものは次のとおりであります。

	前事業年度 (平成24年 3 月31日)	当事業年度 (平成25年 3 月31日)
受取手形	23百万円	30百万円
営業未収入金	6 "	0 "
営業未払金	880 "	879 "
短期借入金	518 "	250 "

3 担保に供している資産

道路交通事業財団の組成

	前事業年度 (平成24年 3 月31日)	当事業年度 (平成25年 3 月31日)
(担保物件)		
建物	1,357百万円	1,262百万円
車両運搬具	107 "	82 "
土地	9,486 "	10,345 "
計	10,952百万円	11,690百万円
(対応債務)		
1年内返済予定長期借入金	1,595百万円	1,583百万円
長期借入金	4,067 "	4,000 "
計	5,662百万円	5,583百万円

4 国庫補助金等により取得原価から控除した固定資産の圧縮記帳額

	前事業年度 (平成24年 3 月31日)	当事業年度 (平成25年 3 月31日)
建物	5百万円	5百万円
車両運搬具	19 "	7 "

5 事業用土地の再評価

土地の再評価に関する法律(平成10年3月31日公布法律第34号)に基づき、事業用土地の再評価を行い、評価差額については、当該評価差額に係る税金相当額を「再評価に係る繰延税金負債」として負債の部に計上し、これを控除した金額を「土地再評価差額金」として純資産の部に計上しております。

- ・再評価の方法 土地の再評価に関する法律施行令(平成10年3月31日公布政令第119号)第2条第3号に定める固定資産税評価額により算定しております。

- ・再評価を行った年月日 平成14年3月31日

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
再評価を行った事業用土地の当期末における時価と再評価後の帳簿価額との差額	4,767百万円	5,080百万円

6 下記各社の銀行取引等に対し債務保証をしております。

	前事業年度 (平成24年3月31日) (債務額)	当事業年度 (平成25年3月31日) (債務額)
三陸貨物㈱	0百万円	—
北陸名鉄運輸㈱	1,030 "	952百万円
関東名鉄カーゴサービス㈱	6 "	5 "
計	1,037百万円	957百万円

(損益計算書関係)

1 関係会社に係る注記

売上原価・販売費及び一般管理費のうち関係会社に対するものは次のとおりであります。

		前事業年度 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)	当事業年度 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)
売上原価	運送委託料	7,418百万円	7,498百万円
"	連絡中継料	2,846 "	2,944 "
"	取扱手数料	1,389 "	1,401 "
"	施設使用料	47 "	17 "
"	その他	204 "	164 "
販売費及び 一般管理費	その他	38 "	2 "
計		11,945百万円	12,029百万円

営業外収益のうち関係会社に対するものは次のとおりであります。

		前事業年度 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)	当事業年度 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)
受取利息		44百万円	34百万円
受取配当金		545 "	398 "
受取手数料		10 "	10 "
受取派遣料		70 "	67 "
その他		12 "	14 "
計		684百万円	524百万円

2 前事業年度(自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)

名鉄流通(株)に係る事業損失引当金繰入額であります。

当事業年度(自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)

名鉄流通(株)に係る事業損失引当金繰入額であります。

3 固定資産売却益の内容は次のとおりであります。

		前事業年度 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)	当事業年度 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)
車両運搬具売却益		44百万円	77百万円
工具、器具及び備品売却益		—	0 "
計		44百万円	78百万円

4 固定資産処分損の内容は次のとおりであります。

		前事業年度 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)	当事業年度 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)
建物除却損		0百万円	5百万円
構築物除却損		2 "	1 "
機械及び装置除却損		0 "	0 "
車両運搬具売却損		4 "	1 "
車両運搬具除却損		1 "	2 "
工具、器具及び備品除却損		0 "	0 "
土地売却損		—	1 "
ソフトウェア除却損		—	0 "
その他		10 "	6 "
計		19百万円	18百万円

5 減損損失

前事業年度(自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)

当社は、以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

用途	種類	場所	減損損失 (百万円)
営業所施設	建物等	横浜市戸塚区	11
遊休資産	土地等	富山県富山市ほか	15
合計			27

当社は、管理会計上の区分を基礎にグルーピングを行っておりますが、現在未稼働で今後も事業の用に供する予定がないものについては、遊休資産としてグルーピングしております。

上記の資産については収益性が著しく低下したことにより、投資の回収が困難と見込まれるため帳簿価額相当額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。

なお、当資産グループの回収可能価額は、固定資産税評価額に合理的な調整を行って算出した正味売却価額により測定しております。

当事業年度(自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)

当社は、以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

用途	種類	場所	減損損失 (百万円)
遊休資産	電話加入権	横浜市戸塚区ほか	1
合計			1

当社は、管理会計上の区分を基礎にグルーピングを行っておりますが、現在未稼働で今後も事業の用に供する予定がないものについては、遊休資産としてグルーピングしております。

上記の資産については収益性が著しく低下したことにより、投資の回収が困難と見込まれるため帳簿価額相当額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。

なお、当資産グループの回収可能価額は、売却可能性が見込めないため備忘価額により測定しております。

6 前事業年度(自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)

名鉄トラック運送(株)に係る貸倒引当金繰入額であります。

当事業年度(自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)

大阪名鉄急配(株)及び三陸貨物(株)に係る貸倒引当金繰入額であります。

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)

自己株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式(千株)	99	2	—	102

(変動事由の概要)

増加数の主な内訳は、次の通りであります。

単元未満株式の買取りによる増加 2千株

当事業年度(自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)

自己株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式(千株)	102	4	—	106

(変動事由の概要)

増加数の主な内訳は、次の通りであります。

単元未満株式の買取りによる増加 4千株

(リース取引関係)

リース取引開始日が平成20年3月31日以前の所有権移転外ファイナンス・リース取引

(借主側)

(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成24年3月31日)		
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
建物	2,099	995	1,104
機械及び装置	9	7	1
車両運搬具	2,445	1,479	965
工具器具及び備品	522	442	79
ソフトウェア	10	10	0
合計	5,087	2,935	2,151

(単位：百万円)

	当事業年度 (平成25年3月31日)		
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
建物	2,099	1,098	1,001
機械及び装置	9	9	0
車両運搬具	1,669	1,035	633
工具器具及び備品	—	—	—
ソフトウェア	—	—	—
合計	3,778	2,143	1,635

(2) 未経過リース料期末残高相当額

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
1年内	468	277
1年超	2,084	1,742
合計	2,552	2,019

(3) 支払リース料、減価償却費相当額及び支払利息相当額

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
支払リース料	628	610
減価償却費相当額	429	406
支払利息相当額	136	126

(4) 減価償却費相当額及び利息相当額の算定方法

減価償却費相当額の算定方法

- ・リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

利息相当額の算定方法

- ・リース料総額とリース物件の取得価額相当額との差額を利息相当額とし、各期への配分方法については、利息法によっております。

１．ファイナンス・リース取引

（借主側）

所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

・有形固定資産

主として、貨物自動車運送事業における輸送管理用ハードウェアであります。

・無形固定資産

主として、貨物自動車運送事業における輸送管理用ソフトウェアであります。

リース資産の減価償却の方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

２．オペレーティング・リース取引

（借主側）

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成24年 3 月31日)	当事業年度 (平成25年 3 月31日)
1 年内	178	177
1 年超	1,144	966
合計	1,322	1,144

（貸主側）

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成24年 3 月31日)	当事業年度 (平成25年 3 月31日)
1 年内	30	117
1 年超	256	970
合計	286	1,088

（有価証券関係）

保有する全ての子会社株式及び全ての関連会社株式について、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるものであります。

(注)時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式及び関連会社株式の貸借対照表計上額

(単位：百万円)

区分	平成24年 3 月31日	平成25年 3 月31日
子会社株式	4,574	4,583
関連会社株式	30	30
計	4,604	4,613

[次へ](#)

(税効果会計関係)

(1) 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成24年 3 月31日)	当事業年度 (平成25年 3 月31日)
繰延税金資産		
未払事業税否認額	71百万円	7百万円
退職給付引当金	1,631 "	1,687 "
貸倒引当金損金算入超過額	253 "	287 "
減損損失否認額	47 "	38 "
有価証券評価損否認額	861 "	861 "
減価償却費超過額	18 "	23 "
資産除去債務	114 "	115 "
その他	110 "	67 "
繰延税金資産小計	3,110百万円	3,088百万円
評価性引当額	1,964 "	2,080 "
繰延税金資産合計	1,146百万円	1,007百万円
繰延税金負債		
資産除去債務に対応する除去費用	33百万円	33百万円
資産圧縮積立金	480 "	455 "
退職給付信託設定益	64 "	64 "
子会社資本準備金払戻	21 "	21 "
その他有価証券評価差額	91 "	153 "
繰延税金負債合計	692百万円	729百万円
繰延税金資産(負債)の純額	453百万円	278百万円

繰延税金資産及び負債の純額は、貸借対照表の以下の項目に含まれております。

	前事業年度 (平成24年 3 月31日)	当事業年度 (平成25年 3 月31日)
流動資産 - 繰延税金資産	193百万円	236百万円
固定資産 - 繰延税金資産	260 "	41 "

上記のほか、下記の再評価に係る繰延税金負債を計上しております。

	前事業年度 (平成24年 3 月31日)	当事業年度 (平成25年 3 月31日)
固定負債 - 再評価に係る繰延税金負債	2,195百万円	2,165百万円

(2) 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (平成24年 3 月31日)	当事業年度 (平成25年 3 月31日)
法定実効税率	40.6%	37.7%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	1.6 "	0.6 "
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	11.2 "	10.7 "
住民税均等割	3.9 "	5.5 "
法人税等追徴税額	—	0.6 "
繰越欠損金の当期控除額	—	4.3 "
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	1.1 "	—
復興特別法人税分の税率差異	—	0.6 "
評価性引当額	29.3 "	8.0 "
その他	0.7 "	0.6 "
税効果会計適用後の法人税等の負担率	6.0%	38.6%

(資産除去債務関係)

資産除去債務のうち貸借対照表に計上しているもの

(1) 当該資産除去債務の概要

営業所施設土地、建物の不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務等であります。

(2) 当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間を取得から15年～50年と見積り、割引率は1.380%～2.303%を使用して資産除去債務の金額を計算しております。

(3) 当該資産除去債務の総額の増減

	前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
期首残高	335百万円	322百万円
有形固定資産の取得に伴う増加額	—	6 "
時の経過による調整額	5 "	5 "
その他の増減額	18 "	8 "
期末残高	322百万円	326百万円

(1株当たり情報)

	前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
1株当たり純資産額	307円71銭	348円26銭
1株当たり当期純利益	78円96銭	36円80銭

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
1株当たり当期純利益		
当期純利益(百万円)	1,918	894
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る当期純利益(百万円)	1,918	894
普通株式の期中平均株式数(千株)	24,302	24,298

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有価証券明細表】

【株式】

銘柄			株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)
投資有価証券	その他有価証券	(株)三菱ＵＦＪフィナンシャル・グループ	430,280	240
		三井住友トラスト・ホールディングス(株)	537,503	238
		テルモ(株)	50,000	202
		日本自動車ターミナル(株)	166,336	166
		全日本空輸(株)	829,040	159
		信州名鉄運輸(株)	1,713,600	145
		(株)みずほフィナンシャルグループ	503,000	100
		(株)オリバー	55,000	68
		(株)三井住友フィナンシャルグループ	15,200	57
		(株)上組	59,000	51
		日本トランスシティ(株)	92,610	34
		(株)ＬＩＸＩＬグループ	15,262	28
アキレス(株)ほか 46銘柄	440,354	166		
計			4,907,185	1,659

(注) 全日本空輸(株)は平成25年4月1日付で商号をANAホールディングス(株)に変更しております。

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (百万円)	当期末残高 (百万円)	当期末減価 償却累計額 又は償却 累計額 (百万円)	当期償却額 (百万円)	差引当期末 残高 (百万円)
有形固定資産							
建物	15,964	193	65	16,092	10,339	392	5,753
構築物	3,656	32	26	3,663	2,851	72	811
機械及び装置	488	25	13	501	407	14	93
車両運搬具	7,584	2,161	541	9,204	4,328	604	4,875
工具、器具及び備品	518	173	37	655	418	52	236
土地	27,891	218	110	27,999	—	—	27,999
リース資産	708	—	134	574	501	119	72
有形固定資産計	56,813	2,805	928	58,690	18,848	1,254	39,842
無形固定資産							
借地権	151	—	—	151	—	—	151
ソフトウェア	178	152	7	323	135	34	188
リース資産	397	—	37	360	330	77	30
電話加入権	25	0	1 (1)	24	—	—	24
施設利用権	2	—	—	2	1	0	0
無形固定資産計	755	152	46 (1)	861	467	111	394
長期前払費用	(4)	(3)	(6)	(2)			(2)
	23	3	7	20	17	0	2

(注) 1 当期の増加額及び減少額の主なものは次のとおりであります。

建 物	増加	横浜支店新築	158百万円
車両運搬具	増加	大型車 1,002百万円 中型車 839百万円 小型車 105百万円	
工 具 器 具	増加	本社 精算システムサーバー	106百万円
土 地	増加	栃木県宇都宮市地内	187百万円
	減少	旧富山営業所	110百万円

2 有形固定資産及び無形固定資産の()内の金額は内書で、減損損失であります。

3 長期前払費用の償却については、均等償却によっております。

4 長期前払費用の()内の金額は内書で、無線免許更新に係る費用等であり、減価償却資産と性格が異なるため、償却累計額、当期償却額には含まれておりません。

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (目的使用) (百万円)	当期減少額 (その他) (百万円)	当期末残高 (百万円)
貸倒引当金	679	431	279	64	767
役員退職慰労引当金	36	11	3	—	44
関係会社事業損失引当金	210	15	—	144	80

(注) 1 貸倒引当金の当期減少額の「その他」欄の金額のうち、15百万円は債権の回収による戻入額であり、25百万円は洗替による戻入額であり、24百万円は関係会社貸倒引当金の戻入額であります。

2 関係会社事業損失引当金の当期減少額の「その他」欄の金額は、貸倒引当金への振替額であります。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

現金及び預金

区分		金額(百万円)
現金		69
預金	当座預金	1
	普通預金	84
	定期預金	200
	別段預金	1
	計	288
合計		358

受取手形

相手先別内訳

相手先	金額(百万円)
サントリービジネスエキスパート(株)	104
山九(株)	91
日本通信紙(株)	47
西鉄運輸(株)	40
(株)若洲	26
その他	499
合計	809

期日別内訳

期日	金額(百万円)
平成25年 4 月	108
5 月	210
6 月	316
7 月	145
8 月	29
合計	809

営業未収入金
相手先別内訳

相手先	金額(百万円)
日立物流ファインネクスト(株)	275
王子パッケージング(株)	104
S T A R L E C S (株)	87
(株)D N P ロジスティクス	83
クラシエホームプロダクツ(株)	68
その他	6,031
合計	6,650

営業未収入金の発生及び回収並びに滞留状況

当期首残高 (百万円) (A)	当期発生高 (百万円) (B)	当期回収高 (百万円) (C)	当期末残高 (百万円) (D)	回収率(%) $\frac{(C)}{(A)+(B)} \times 100$	滞留期間(日) $\frac{(A)+(D)}{2}$ $\frac{(B)}{365}$
6,742	55,683	55,774	6,650	89.3	43.9

(注) 消費税等の会計処理は、税抜方式を採用しておりますが、上記金額には消費税等が含まれております。

貯蔵品

品名	金額(百万円)
燃料用品	48
梱包資材	21
事務用品等	31
車両用品ほか	18
合計	119

関係会社短期貸付金

会社名	金額(百万円)
三陸貨物(株)	659
東北名鉄運輸(株)	650
四国名鉄運輸(株)	563
和歌山名鉄運輸(株)	414
名鉄急配(株)	301
その他	983
合計	3,573

関係会社株式

会社名	金額(百万円)
四国名鉄運輸(株)	2,032
北陸名鉄運輸(株)	1,502
九州名鉄運輸(株)	306
名鉄急配(株)	168
柳島運送(株)	166
その他	436
合計	4,613

支払手形
相手先別内訳

相手先	金額(百万円)
(株)名鉄交通商事	148
信州名鉄運輸(株)	88
(株)永井運送	57
(株)トーハイ	52
(株)ENEOSフロンティア	51
その他	1,402
合計	1,800

期日別内訳

期日	金額(百万円)
平成25年4月	542
5月	550
6月	358
7月	345
8月	2
合計	1,800

営業未払金

相手先	金額(百万円)
名鉄産業(株)	224
名鉄急配(株)	153
東北名鉄運輸(株)	125
(株)メイテツコム	123
関東名鉄急配(株)	119
その他	2,595
合計	3,341

短期借入金

相手先	金額(百万円)
(株)名鉄マネジメントサービス	15,418
(株)三井住友銀行	1,000
三井住友信託銀行(株)	1,000
(株)三重銀行	500
中国名鉄運送(株)	143
その他	506
合計	18,568

1年内返済予定の長期借入金

相手先	金額(百万円)
(株)三菱東京UFJ銀行	1,298
三井住友信託銀行(株)	225
(株)福岡銀行	212
(株)愛知銀行	208
(株)三重銀行	200
その他	1,887
合計	4,030

長期借入金

相手先	金額(百万円)
(株)三菱東京UFJ銀行	3,318
(株)山口銀行	1,083
(株)八十二銀行	919
(株)第四銀行	900
(株)百五銀行	550
その他	6,080
合計	12,850

退職給付引当金

内訳	金額(百万円)
退職給付債務	5,691
未認識過去勤務債務	—
未認識数理計算上の差異	141
会計基準変更時差異の未処理額	977
年金資産額	74
合計	4,498

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第 6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日、3月31日
1単元の株式数	1,000株
単元未満株式の買取り・買増し	
取扱場所	名古屋市中区栄三丁目15番33号 三井住友信託銀行(株) 証券代行部
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行(株)
取次所	—
買取・買増手数料	無料
公告掲載方法	日本経済新聞
株主に対する特典	なし

(注) 会社法第440条第4項の規定により決算公告は行いません。

第 7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類、 有価証券報告書の確認書	事業年度 (第79期)	自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日	平成24年6月26日 東海財務局長に提出
(2) 内部統制報告書	事業年度 (第79期)	自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日	平成24年6月26日 東海財務局長に提出
(3) 四半期報告書、四半期報告書の確認書	第80期 第1四半期	自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日	平成24年8月9日 東海財務局長に提出
	第80期 第2四半期	自 平成24年7月1日 至 平成24年9月30日	平成24年11月8日 東海財務局長に提出
	第80期 第3四半期	自 平成24年10月1日 至 平成24年12月31日	平成25年2月12日 東海財務局長に提出
(4) 臨時報告書	企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2(株主総会における議決権行使の結果)に基づく臨時報告書		平成24年6月28日 東海財務局長に提出

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成25年 6 月24日

名鉄運輸株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 井 上 嗣 平
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 田 中 智 司
業務執行社員

< 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている名鉄運輸株式会社の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、名鉄運輸株式会社及び連結子会社の平成25年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、名鉄運輸株式会社の平成25年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、名鉄運輸株式会社が平成25年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- () 1 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が連結財務諸表及び内部統制報告書に添付する形で別途保管しております。
- 2 連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成25年 6 月24日

名鉄運輸株式会社

取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 井 上 嗣 平
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 田 中 智 司
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている名鉄運輸株式会社の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの第80期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、名鉄運輸株式会社の平成25年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

() 1 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

2 財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。